

平成29年度 第4回市川市自立支援協議会

日 時：平成30年3月23日（金）
午後1時30分～3時30分

場 所：急病診療・ふれあいセンター2階
第2集会室

会 議 次 第

- 1 開会
- 2 連絡事項
- 3 基幹相談支援センター運営協議会の報告
(資料1)
- 4 来年度以降の部会について
(資料2)
- 5 各専門部会・障害者団体連絡会の状況について
(資料3-1～4)
- 6 閉会

平成29年度 第1回基幹相談支援センター運営協議会 概要

【日 時】：平成30年3月5日（月） 午後3時～5時

【場 所】：急病診療・ふれあいセンター3階 障害者支援課 支援ルーム

【出席者】：(メンバー) 朝比奈 中里 武田 小原 高木 西村 大井 山崎
保戸塚

(えくる) 長坂 松尾 芦田

(事務局) 池澤 渡辺 石田

合計15名

- 【議 事】：1 開会
2 実績報告
3 運営協議会の進め方について
4 その他
5 閉会

【主な意見・提案】：

1 相談の見える化

- えくるが行っている業務を視覚的に示す必要性、業務別の相談件数だけではなく、ライトからヘビーなケース対応について具体的に見たい。

2 夜間緊急ケースの事例

- 数が少ないにせよ、対応の課題や社会資源の不足を具体的に示すことで、体制整備や強化が進むのでは。

3 虐待の扱い

- 数字以外にも事例を通した対応の体制などの課題についての検証の必要性、主訴やニーズの類型化

4 基幹相談支援センターの果たす中核機能について

- 市民のニーズや社会資源の整備状況などにより、えくるが果たすべき中核機能が決まってくるのでは。予防的支援体制の整備や指定相談支援事業者へのバックアップなど。

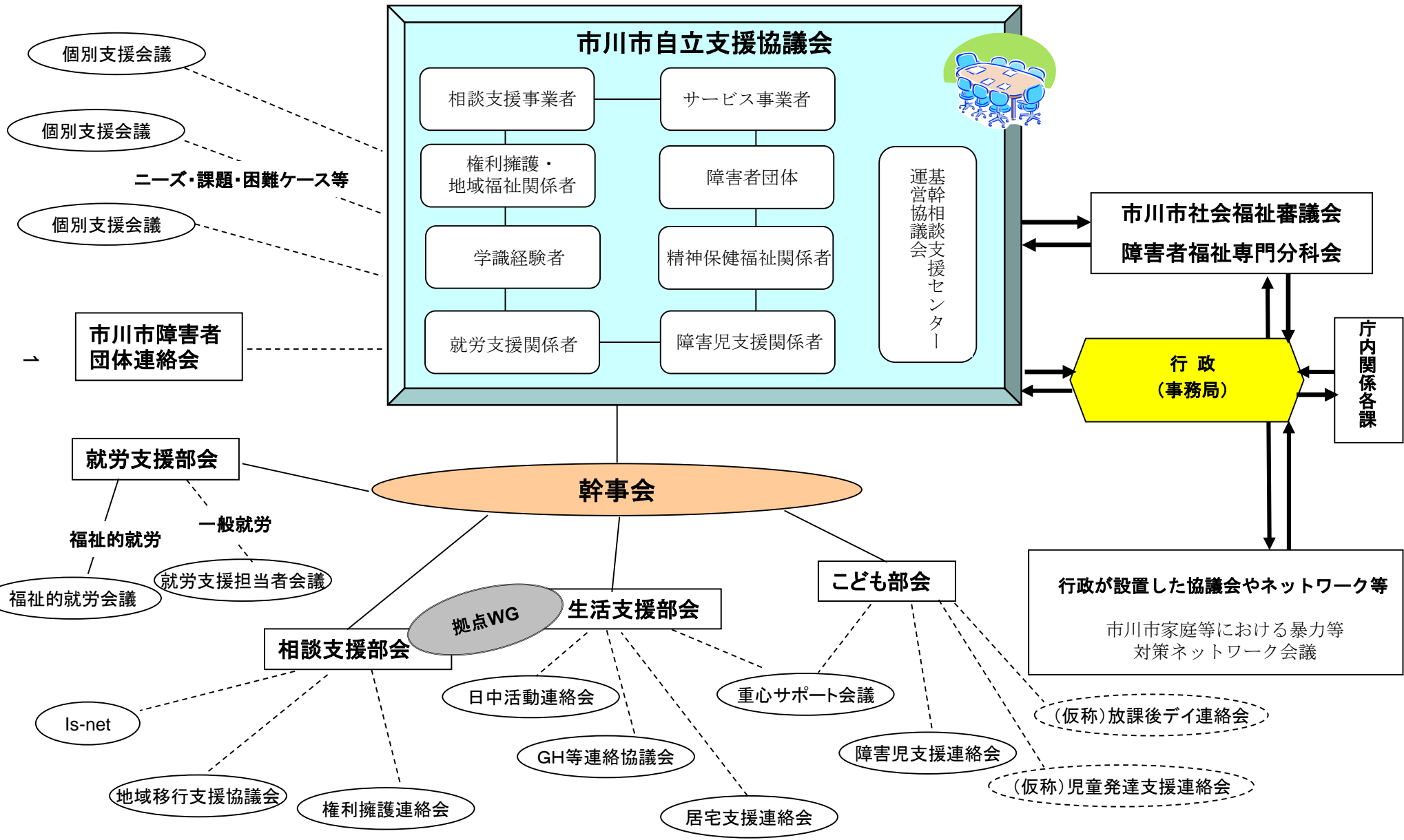
5 関連会議等への開催・出席の判断基準について

- 限られた人材・時間を有効に使うための戦略的・計画的な会議の開催及び出席の必要性、えくるとしての注力する部分・分野の優先順位付けの必要性

6 個別ケースの終了の基準

- 滞留しているケースの多さ、地域定着支援につなげることのできるケースの存在、終了の基準を設定したうえで、相談者に伝えていく必要性、アセスメント終了時における目標や期間の設定

市川市自立支援協議会の関係図(平成30年度案)



市川市自立支援協議会

相談支援事業者	サービス事業者
権利擁護・地域福祉関係者	障害者団体
学識経験者	精神保健福祉関係者
就労支援関係者	障害児支援関係者

基幹相談支援センター
運営協議会

市川市社会福祉審議会
障害者福祉専門分科会

行政(事務局)

庁内関係各課

行政が設置した協議会やネットワーク等

市川市家庭等における暴力等
対策ネットワーク会議

幹事会

就労支援部会

相談支援部会

生活支援部会

子ども部会

福祉的就労

一般就労

拠点WG

福祉的就労会議

就労支援担当者会議

Is-net

地域移行支援協議会

権利擁護連絡会

日中活動連絡会

GH等連絡協議会

居宅支援連絡会

重心サポート会議

障害児支援連絡会

(仮称)放課後デイ連絡会

(仮称)児童発達支援連絡会

個別支援会議

個別支援会議

ニーズ・課題・困難ケース等

個別支援会議

市川市障害者
団体連絡会

就労支援部会

福祉的就労

一般就労

拠点WG

福祉的就労会議

就労支援担当者会議

Is-net

地域移行支援協議会

権利擁護連絡会

日中活動連絡会

GH等連絡協議会

居宅支援連絡会

重心サポート会議

障害児支援連絡会

(仮称)放課後デイ連絡会

(仮称)児童発達支援連絡会

個別支援会議

個別支援会議

ニーズ・課題・困難ケース等

個別支援会議

市川市障害者
団体連絡会

就労支援部会

福祉的就労

一般就労

拠点WG

福祉的就労会議

就労支援担当者会議

Is-net

地域移行支援協議会

権利擁護連絡会

日中活動連絡会

GH等連絡協議会

居宅支援連絡会

重心サポート会議

障害児支援連絡会

(仮称)放課後デイ連絡会

(仮称)児童発達支援連絡会

部会開催日：12/14,1/11,2/8,3/8 計4回

○各関連会議からの報告 *別紙参照

- ①市川障害児者相談支援事業所連絡協議会 (Is-net)
- ②権利擁護連絡会
- ③地域移行支援協議
- ④障害児支援連絡会
- ⑤重心サポート会議

○報酬改定について進捗報告

○第六次千葉県障害者計画フォーラム 報告

○次期部会委員構成について (提案)

○GSV 半期報告 *別紙参照

・半期報告

精神疾患に係るご利用者の事例が多かった。

親亡き後の支援で親の抱え込み、居住、計画相談へ繋ぐ、ひきこもり、成育歴課題、介護保険への移行、サービス利用に繋がらない等が上がった。

・GSV を行うようになり、5年が経過したため、過去5年間の事例より見出された地域課題の報告
緊急性及び取組が高難度の位置に生活支援部会や拠点に係る事例が多く当てはまっていた。

○各プロジェクト取組報告

【プロジェクト1】 ガイドライン改訂

紹介シート確定しガイドラインへ盛り込む。

H29年度版をガイドライン研修より配布開始

【プロジェクト2】 ガイドライン研修 別紙参照

*次年度の検討として、インフルエンザの時期と重なる事への課題や開催時間により、夜間参加できない方々も参加しやすくなるのでは？段階別や共生型を意識しては？という意見も上がった。

また、担当する人により負担比重の偏りがあるように感じるため、分担方法の検討も必要。

【プロジェクト3】 人材確保、育成、啓発及び拠点事業への取組 別紙参照

各関連協議会等との情報交換会終了。全10団体 延べ233名からの意見を集約し課題を抽出し項目分けを行い、取組について3つに分けた。

- ・行政での検討案件については次期の引き続きの検討となった。
- ・今年度取組開始案件については取組順を決め、まずは、相談支援専門員の育成として、障害別分野別技術能力について研修の洗い出しを行った。次期には体系別及び体制の検討を進めていきたい。また、相談支援の啓発については、団体連絡会との連携や公立施設の保護者の方を対象とした説明等協力依頼をした。
- ・制度改正を踏まえ、再検討としていた課題については、加算や要件の緩和の打ち出しがされたため、一旦検討終了とし、様子を見ていく事とした。

No.	地域課題：地域で取り組む項目	振り分け
1	障害福祉サービス事業所（A型など）の福祉対応の未成熟さ。（ケース会議やサービス調整会議への理解が浅いなど）	就労支援部会
2	ピアヘルパー（仕事）として行くシステム	
3	身寄りがなく、自ら意思を伝えることが難しい最重度の人の暮らしの場等	生活支援部会
4	送迎の問題。	
5	住まいと仕事と医療が結びつく福祉施設や宿泊型訓練施設の市内においての必要性。	
6	市内GH・短期入所・機能訓練（PT）・生活リハ（OT）・通所先不足	
7	就労継続A・Bの送迎の問題	
8	入所施設以外に、安心して生活できる場所が乏しい	
9	身体系の通所先 DS + 生活介護（区分3）を広げて行きたい。	
10	短期入所の受け皿が足りない。	
11	福祉の場ではない場の開拓（成功体験を積める場）。	
12	市内の通所のバリエーションが少ない。（小物の作成、販売やセンスの良い店などが無い）	
13	モラトリアム期間の確保、実体験の場	相談支援部会
14	GSVの参加しやすい雰囲気作り	
15	特別支援学校卒業後の行き先	
16	大人の選択肢の幅の狭さ（今は働くしかない、等の提案の幅）	
17	ひきこもりによって社会的孤立が続いている。	
18	本人に合った住宅事情をどう解決するか。	
19	強度行動障害の方の受け入れ先が無く、たらい回しにされ、受け手の判断で断られてしまう現状の改善。	
20	市内に発達障害の当事者グループがない。	当事者会
21	中高年の当事者支援の仕組み。	
22	所属機関以外の障害者のつながれる場所	
23	障害児を持った、障害のある親の当事者会	
24	障害の枠で関われない人に、誰がどのように関わるか。健康な背中を見せられる大人の人材ストック、活用。	横断的
25	つながれる居場所。	
26	地縁のない人の孤立。	
27	ライフステージの変わり目で社会資源が切れてしまう。	
28	圏域やライフステージを超えた情報提供の仕組み	
29	親父世代の支援者の不足。	
30	南部地区の社会資源の少なさ。	全般的
31	身体系のGHを含めた社会資源が少ない。	
32	障害児のガイドブック作成。情報収集の一括化。	対応済み
33	虐待防止センターの明確さ	
34	装具のフィッティング。	×
35	事業所の検索（支援課のHPに欲しい）	

地域課題 分布図

(低)

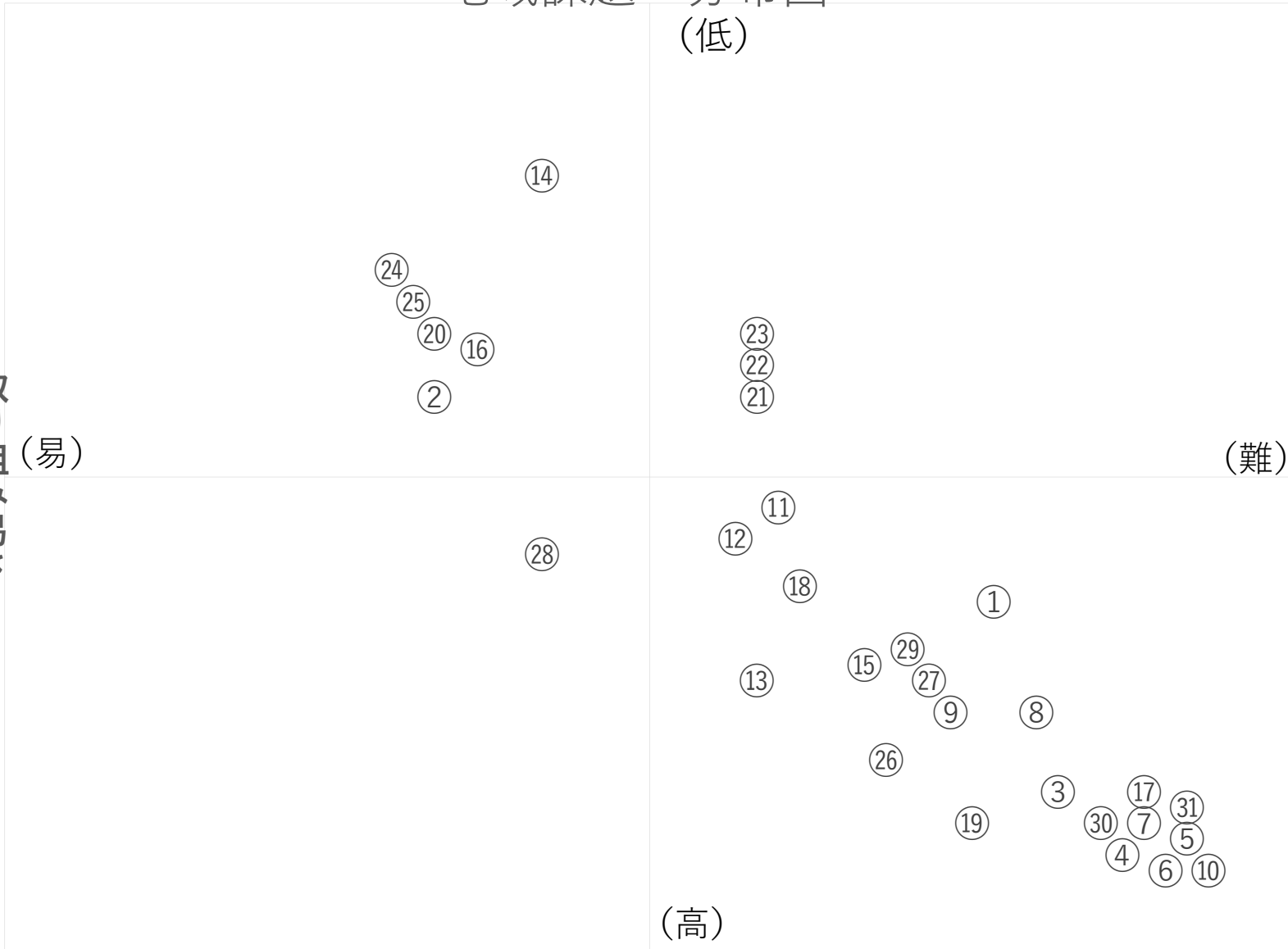
取り組み易さ

(易)

(難)

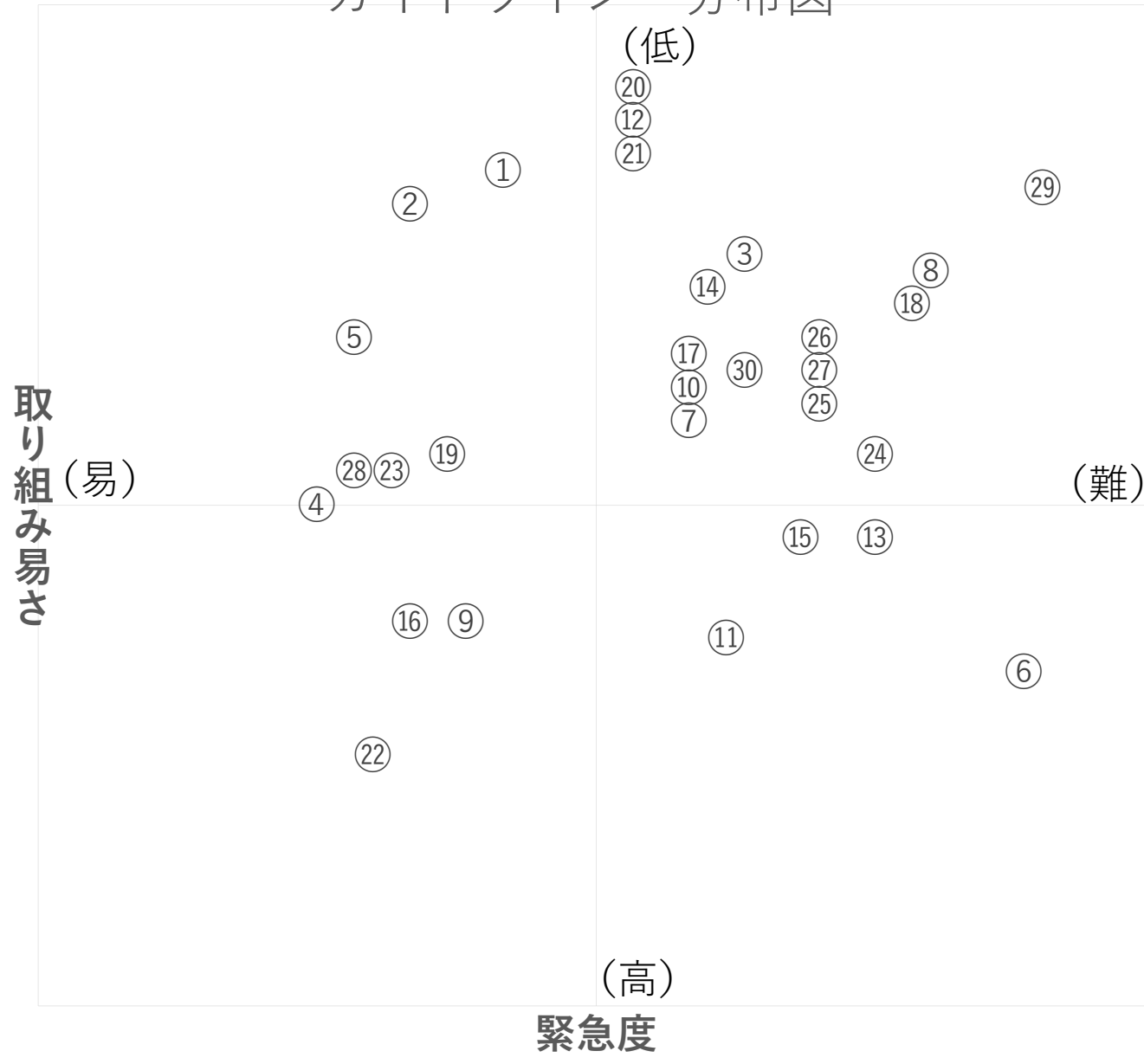
(高)

緊急度



分類	No.	ガイドライン課題	件数
アセスメント力	1	"働きたい"という訴えの奥の、本音のニーズを見極める。	6
	2	複数の支援者の視点を確保する。一人で抱え込まない。	2
	3	家族の力の見立て。家族が本人支援が困難な時のサポート。	1
	4	外に出たほうが面白いという魅力。	1
	5	表出されていない隠れたニーズを拾う手立てが必要。	1
環境調整	6	"親亡き"前のアプローチ	4
	7	近隣との調整	2
	8	女性支援者が男性支援に関わる場合等の安全確保の方法	1
知識・情報・技術	9	依存症への理解と対応に関する支援者対象の研修	1
	10	軽度知的障害の生活のしづらさへの理解	1
	11	引きこもり支援のノウハウを学ぶ場。	2
	12	障害福祉サービスなどの制度を理解を深める。	3
	13	障害福祉サービスを利用していない障害者が、ケアマネを確保する方法。	9
	14	発達障害者への支援のスキルアップ	3
	15	多問題家族への対応	6
	16	触法障害者等への支援のスキル、ノウハウ	3
	17	中途の身体障害者のケースワークのノウハウの共有。	1
	18	成年後見の相談のタイミング	2
	19	関係作りや、アプローチのノウハウ	2
	20	相談支援専門員が地域の社会資源や制度やノウハウ、地域外の情報等を得る方法。	7
	21	えくる・アクセスなどの障害福祉サービス以外の福祉サービスなどの知識。	2
	22	外国人に対する支援のノウハウ	2
	23	ケアマネの質の向上	2
連携	24	支給決定の明確化	1
	25	学校との連携	3
	26	市役所との連携	3
	27	医療機関との情報交換。	1
	28	若者サポートステーションからの福祉サービスへのつなぎ	1
	29	他機関との連携方法。介入時、引継ぎ時の情報の共有の方法。	13
	30	相談支援だけで抱えこまず、いろいろな関係機関を巻き込み、支援を増やす。	5

ガイドライン 分布図



平成29年度障害児・者相談支援ガイドライン研修(総括)

参加状況

回数	日付	申込者数	参加者数	スタッフ	合計
第1回	H30.1.12	60	58	7	65
第2回	H30.1.26	60	53	7	60
第3回	H30.2.9	94	80	7	87
平均		71.3	63.7	7	70.7

左表のうち「参加者数」の内訳

障害(指定相談有)	障害(指定相談なし)	介護	その他	行政	合計
23	12	11	8	4	58
22	8	8	12	3	53
34	19	8	14	5	80

研修の評価(+3～-3の範囲で評価してもらい、平均値を算出)

(第1回)

相談支援の理念・意義・基本的な考え方・社会	2.3
計画相談支援の実際	2.1
グループ討議	2.2

(第2回)

障害者虐待防止についての理解	2.2
寸劇・グループ討議と発表・質疑	2.1

(第3回)

発達障害の講義	2.6
事例演習(グループ討議)	2.1

【課題・反省点・希望】

第1回	グループワークの時間を多くとって欲しい。資料の字が読みにくい。専門用語の解説があると良い。成功・失敗を踏まえて、どうつながったかなどが聞きたい。
第2回	虐待通報はとてもハードルが高く感じる。ニュースの事例・障害児虐待についても触れて欲しい。寸劇の状況説明がスライドで視覚的にあると良い。解決した事例や、困難事例を紹介して欲しい。マイク環境が悪い。
第3回	グループワークの時間が短かった。専門用語が理解できなかった。最初からグループごとにテーブルを分けてやったほうが良い。
全体	託児サービスを検討して欲しい。研修資料をガイドラインに入れて欲しい。研修でガイドラインをもっと使って欲しい。障害から介護保険に移行するケースの対応について聞きたい。サビ管との合同研修が必要。

【総括】

第1回	「相談支援の理念や意義、基本的な考え方」や「相談支援の体系・位置づけ」など基本的な事柄を中心に、これから相談支援を始める方にもわかりやすい内容の講義となった。
第2回	基幹に障害者虐待防止センターを設置したことなどを受け、虐待防止をテーマにロールプレイを行った。多くの相談支援従事者が虐待通報に敷居の高さを感じていることが、質疑やアンケートから浮き彫りになった。
第3回	「発達障害」について、CASセンター長の與那嶺氏を講師に基本的知識やアセスメントの視点について講義を受けた。講義は概ね好評であったが、後半の事例検討では十分な討論ができなかったという感想が多かった。
全体	3回目の「発達障害」は参加申し込みが多く、現場のニーズに応えられた感がある。1日目・2日目は昨年に比べ参加が低調になっており、次年度は工夫が必要と思われる。

課題	予定							検討
	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3	H30.4	
1 相談支援専門員の確保	(1) 管理者・経営者への依頼 (招集)	→	→	→	→	→	→	行政にて持ち帰り検討。(介護保険事業所との連動も視野に入れ) 開催時期の確認・共有など早急に検討したい。 ⇒改定の説明と合わせて実施しては如何か?
	(2) 優良事業所を表彰 (自立支援協・行政)		→	→	→	→	→	PJTにて表彰内容検討としていたが、検討を重ねた結果、部会及び行政主催で行うことは難易度が高いため、任意団体での実施が行いやすい。 ⇒Is-netへ提案する事とした
	(3) 相談支援専門員の人材配置に対する助成	→	→	→	→	→	→	今年度：Is-netにてアンケートの実施依頼 判定基準や根拠となるものが必要。 障害者計画を踏まえ、報酬改定の動向確認 ⇒〈報酬改定の概要〉P49②助成ではないが、件数設定の創設
	(4) モニタリング件数 40件/月 加算 (手当)	→	→	→	→	→	→	行政にて持ち帰り検討。(更新月の変更調整も視野に入れ) 業務の効率化、モニタリングの量をこなすことが主になることもあるため、質にも影響されることも踏まえて。 障害者計画を踏まえ、報酬改定の動向確認 ⇒〈報酬改定の概要〉P49②件数設定の創設とP53⑤モニタリング加算の新設
2 相談支援専門員の育成	(1) アセスメントシートの再作成	→	→	→	→	→	→	行政にてアセスメントシートの必須内容について検討。必須内容が解り次第、提案資料を参考に添付し部会にて提案・依頼をかけていく ⇒えくるでたたきを作成し、Is-netにて確認後、ガイドラインに盛り込む。
	(2) 行政職員の相談業務の質・整備	→	→	→	→	→	→	行政にて確認。近隣市のマニュアルを参照し、Is-net? えくる? で骨組み・たたきを作成? も合わせて検討しても良いのでは? ⇒児童：マニュアル作成中 者：次年度Is-netの協力を得てQを作成予定
	(3) 認定調査委託	→	→	→	→	→	→	予算の事もするため、行政でも検討。自分の担当する利用者について、出来る範囲で調査を行えると質の向上とより利用者への理解も深まり、プラン作成の視点、内容も変わってくる
	(4) 医師の意見書の開示	→	→	→	→	→	→	検討。行政でも検討。近隣市を確認している。プラン作成をする上で、基本調査・特記事項・主治医意見書の開示がないのはそもそもおかしい。早急な対応を!! ⇒実施するまでに行う事務手続きが発生するため、もう少し検討をしたい
	(5) 基本相談を受ける際、保障がほしい	→	→	→	→	→	→	今年度：基本相談業務量調査の検討及び実施。改定後、必要時 再提案 基本的には難しいと思われる。Is-netにてアンケートを実施中。部会での報告をもとに検討しては? ⇒基本報酬の保障はないがP50③見直しに伴い、加算新設増と特定事業所加算要件の緩和

H29年度報告

- 新年度に検討結果報告
- 検討終了
- 検討終了
- 検討終了
- 検討終了
- 進行中
- 新年度に検討結果報告
- 新年度に検討結果報告
- 検討終了

課題	予定							検討	H29年度報告
	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3	H30.4		
2 相談支援専門員の育成	(6) Is-netサポート事業の活用促進	→						Is-netと連携・検討 ⇒Isネットにて検討	検討終了
	(7) 障害分野別技術能力	---	---	---	---	---	→	今年度：研修の洗い出し実施。相談支援専門員が受講できる研修を収集し、カテゴリー分けを行った。 次年度：体系別及び体制の検討	進行中次期継続
	(8) 管理者・経営者への指導・育成	→	→	→	→	→	→	行政にて持ち帰り検討。1(1)(7)と連動。定期的に管理者向けの報告及び依頼等を行っていったら？（毎月の依頼数と受入れ件数・基準の遵守理解等） ⇒次年度の実施に向け検討調整中。	新年度に検討結果報告
3 相談支援の啓発	(1) 知名度を上げる	---	---	---	---	---	→	漠然としているため、具体的取組検討。提案は上がっているため今後検討していきたい	検討中
	(2) 学校、保護者、サービス事業所、医療機関、学童への周知・連携	---	---	---	→	→	→	学校関係、サービス事業所等からの取組みを始めては？保護者（公立施設）団体連絡会等へも提案。	進行中次期継続
	(3) 家族支援	---	→	→	→	→	→	関係機関へ企画・提案。公立施設の保護者説明を行政より依頼した。	検討中次期継続
	(4) 行政との連携、共有、期待すること	→	→	→	→	→	→	行政にて持ち帰り検討。Is-netのホームページの利用依頼も視野に入れ検討。（情報共有については、定期的に管理者会議が行われるのであれば、そこで周知も可能では？） ⇒行政と事業所での温度差があると思われる。提案していきたい。	検討中次期継続
	(5) 基幹の増設						→	障害計画の動向確認。ハートフルプランや分科会へ提案を行った	検討終了
	(6) コミュニケーション支援のバリア	---	---	---	---	---	→	今年度：検証 アプリの紹介 具体例の収集 事例を挙げ取り組む。当事者教育が必要⇒方法検討	検討中次期継続
4 拠点事業	(1) 警察介入事例についての取組	→	→	→	→	→	→	今年度：検証。 当事者の事を解っている方を書いたものを持ちあるって頂けるようなヘルプカード的なものを作っては？がじゅまるの24h体制機能について確認 拠点と連動し今後検討	検討中次期継続
	(2) 緊急ショートの利用。補助金などを利用できないか？						→	次年度改正の動向確認し検討 ⇒〈報酬改定の概要〉P15緊急受入れ加算創設。P53加算の新設。今後は相談支援部会からの拠点検討チームにて継続検討	検討終了
	(3) 報酬設定と連携						→	次年度改正の動向確認し検討 ⇒〈報酬改定の概要〉P14 3.地域生活支援拠点等に明記。今後は相談支援部会からの拠点検討チームにて継続検討	検討終了

---→ 検証・検討
 → 実施
 ---→ 行政にて検討・実施
 ---→ 行政・PJにて検討

- 検討終了
- 進行中次期継続
- 新年度に検討結果報告
- 検討中
- 進行中次期継続
- 検討中次期継続
- 検討終了
- 検討中次期継続
- 検討終了
- 検討終了

IS-net 活動報告

【幹事会】

日時 : 平成29年11月10日(金) 10:00~12:00

場所 : 障害者支援課支援ルーム(急病診療・ふれあいセンター3F)

議題 : ①相談支援部会より・・・

・人材確保・育成の為の取り組みについて、相談支援マニュアルに掲載してほしい事柄を会員へアンケートしてはどうか提案があった。

→会員にアンケートが必要か総会で承認を取り、必要であればアンケート調査を行う。

・スーパービジョンについて、バイジーから敷居が高いと思われている事が多く、イメージの改善を図りたいと打診がある。

→オブザーバーが多いのも威圧感を感じる原因。サービス利用計画を見せる事に抵抗があるのではないか。

→グループスーパービジョンに慣れる為の取り組みとして、各自のサービス利用計画書を使用した研修が出来ないか、今後検討していく。

②CSK・・・9月・10月・11月役員会報告

③ぶっちゃけ会・・・第3回ぶっちゃけ会報告(システムデモ会)

④研修・・・

・初任者向け研修(全5回)報告

・12月20日(木)15時半~17時半重度高齢障害者についての事例演習実施予定。

⑤保戸塚会長より・・・

・アンケート調査について内容確認。

・第3次いちかわハートフルプランについてのパブリックコメント提出について

⑥事務局より

・11月情報交換会報告

・会員メールについて→来年度総会にて承認が取れた場合、メーリングリストサービスへ移行。

⑦次回役員会 平成30年1月18日(木)10:00 ふれあいセンター

日時 : 平成30年1月18日(木)10:00~12:00

場所 : ふれあいセンター3F

議題 : ①各担当より報告、連絡

・CSK・ぶっちゃけ会・研修担当

②次期役員選考委員より

・次年度役員 金副会長は任期終了。相談支援事業所サポート・レンコン田邊さん、キルト・ビー相談支援事業所高水さん次期役員について了承して頂いている。

③保戸塚会長より

・事業所実態調査について2月末提出締切り

・ライフサポートファイルについて、周知できる機会を作りたい。→次年度総会に実施予定。

・次年度より研修会や幹事会に発達支援課、障害者支援課にも通知し、連携を更に図っていきたい。→保戸塚会長、事務局より依頼。

④内野会計より

・市川市相談支援ガイドライン研修謝金の扱いについて

⑤事務局より

・30年度予定について確認。次回幹事会までに事業計画(案)を作成する。

総会は平成30年5月15日(火)PM実施

日時 : 平成30年3月2日(金)10:00~12:00

場所 : ふれあいセンター3F

議題 : ①事務局より

・平成30年度担当者決め

・来年度HP運営委託事業所について…

NPO法人NECST就労移行支援事業ユースキャリアセンターフラッグの契約が終了する。来年度契約先として市川市内事業所に委託依頼を行っていく。

・平成30年度自立支援協議会推薦者決め

・平成30年度総会内容確認

・5月情報交換会(市川市からの情報提供)内容の検討

②各担当者より報告・連絡

・CSK…役員会報告

・ぶっちゃけ会担当…医療連携シートについて

③保戸塚会長より

・報酬改定について、情報が入り次第周知メールを送る。

・子ども部会分科会について、IS-netへも参加依頼があるかもしれない。

④諸連絡

・役員メーリングリストについて、今月上旬より使用開始する。

・IS-net事業所実態調査について

・市川GH連協ニーズ調査について

【初任者向け基礎講座(第4回)】

日時 : 平成29年9月29日(金)16:30~18:00

場所 : 勤労福祉センター(本館)

内容 : 「計画をつくってみよう(1)演習」計画作成の実際

【初任者向け基礎講座(第5回)】

日時 : 平成29年10月27日(金)16:30~18:00

場所 : 勤労福祉センター(分館)

内容 : 「計画をつくってみよう(2)演習」モニタリングの実際
まとめ

【研修会】

日時 : 平成29年10月24日(火)16:00~18:00

場所 : 急病診療ふれあいセンター3F 支援ルーム

内容 : 被虐待児・者の心理や特徴について学ぶ
講師 : 中村 博子様
(千葉県市川児童相談所 首席児童福祉司(兼)相談調査課長)
参加者 : 20名

日時 : 平成29年12月20日(水) 15:30~17:30
場所 : 市川市勤労福祉センター(本館)第2会議室
内容 : 障害福祉サービスから介護保険移行への事例演習
参加者 : 19名

【情報交換会】

日時 : 平成29年11月2日(木) 16:30~18:30
場所 : I-link ルーム
内容 : 市川市からの情報提供(障害者支援課 池澤様)
参加者 : 23名

【第3回ぶっちゃけ会】

日時 : 平成29年9月15日(金) 18:00~21:00
場所 : 市川市福祉公社 ミーティングルーム
内容 : 相談支援ソフトシステム説明会
・日立システムズ
・サイボウズ株式会社
・株式会社共栄ブレーン
・NDソフトウェア
参加者 : 20名

【大ぶっちゃけ会(情報交換会同日)】

日時 : 平成29年11月2日(木) 19:00~21:00
場所 : I-link タウン1F
参加者 : 17名

市川障害者権利擁護連絡会報告

平成30年3月23日(本会用)

- 平成29年11月10日 後見セミナー報告
○場所・日時 男女共同参画センター 10時~12時半
○テーマ「私の意思を伝える~後見そして相続・遺言~」講師 酒井司法書士
○上記の内容についてとても優しく丁寧な説明があり、大切な事は、家族が仲良く、ちゃんと話し合っておくこと。障害のある人の権利も当たり前を守っていくことなどが、伝わったと思う。
- 障害者権利擁護連絡会家族会作製「障害のある人と成年後見~家族の思いを伝える~」の改訂版が、できあがった。上記セミナーでその紹介がなされた。(必要な人は、家族会にお申し出下さい)
- 平成29年11月15日 市川圏域地域相談員研修会(構成 保健センター、行政、精神・身体・知的の地域相談員)
○場所・日時 市川保健センター 10時~12時
○市川圏域の広域専門相談員に、県内で、最も多い相談が寄せられているセンターの一つである。困難事例も増えている。が、地域相談員に寄せられる差別の相談はまだとても少なく、連携が求められる。また条例に関する周知もいまだ少ない。など報告と話し合いがあった。
- 平成30年1月9日 定例会報告
○場所・時間 男女共同参画センター 1時~3時
○内容
・後見セミナーの反省・感想 概ね、好評であった。100人近い参加者があった。
・千葉家裁市川出張所管内の後見制度利用状況の報告(相談室より)
概ね、最高裁から出される年報告に数字的にも準じている。
船橋・市川・浦安の後見利用者数も、人口比に準じている。
後見人選任状況 専門職後見人 60%、親族後見人 30%、法人後見・市民後見人などは、まだ非常に少ない。
・後見相談室の法人後見の現状
現在10件を受任中。うち市長申したて 3件。来年度は、20件に至る模様。
・後見センターへの改組の件
31年度中に実現できるよう市と調整中。市民後見人候補者の研修もこの3月で終了を迎える。来年度から、裁判所に後見人として選任されるよう、裁判所との話し合いをする。

以上

地域移行支援協議会 12月21日(木) 2月15日(木) 15時半～開催分
基幹相談支援センター大洲「えくる大洲ステーション」支援ルーム
市川市急病診療・ふれあいセンター3階

地域移行支援協議会について報告

サンワーク相談支援事業所 じょいたむ
松田 武丈

平成29年12月21日(木)平成30年2月15日(木)15時半～基幹相談支援センター大洲「えくる大洲ステーション」支援ルームにて開催された「平成29年度 第5回 第6回地域移行支援協議会」について以下のとおり報告致します。

1. 指定一般相談支援の指定を受けられた事業所様に改めて声をかける
⇒新たに3事業所の方にご参加頂いた
2. 千葉県精神障害者地域移行支援事業について
千葉県精神保健福祉センター相談指導課 伊藤様より県内取組状況等のご説明
3. 事業所見学会についての報告
退院後の地域生活において利用可能な社会資源を知ってもらうことを目標に、医療スタッフ(先生、看護師、薬剤師など)の方を主に対象に実施
(Mネット11月15日 ほっとハート12月8日 サンワーク12月14日)
4. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について
2月15日…千葉県健康福祉部障害福祉推進課 副課長 高品様よりご説明
全体の流れと次年度、地域移行支援協議会が取り組む内容について
地域包括ケアシステムを構築するために何が必要なのか課題になるのか焦点を絞って実行に移すのが次年度以降の地域移行支援協議会の役目というところが見えてきた
5. その他
掘り起しチーム進捗状況：圏域外の病院に声をかけ対象になる方がいらっしやった
近況報告：各所の地域移行進捗状況と退院者数の報告
内部向け研修：3月28日(水)18時半～南八幡ワークスにて、江戸川区ヒーライトねっと様ご講演予定
6. 次年度の地域移行支援協議会について
新たな取り組みを行うことから、これまでの委員構成ではまかないきれない部分があり、視点を広げて会を運営する必要がある。次年度に向け保健所と事務局において新たにメンバーが選ばれる予定

重症心身障害児者サポート会議 平成30年1月、2月会議報告まとめ

① 医ケア連絡会について

発達支援課野口主幹に出席頂き、来年度より設置されるこども部会に関係する会議として位置づけされる医ケア連絡会についての内容を協議した。これまでの年間11回開催された重心サポート会議のうち数回を児童に特化した内容として、これを医ケア連絡会とすること。会議が増えることに対する懸念や、周知の問題が意見としてあった。体制やメンバーについては今後決定するとあったが、ドクターや訪問看護事業者、保育関係機関の参加を要望した。次回以降引き続き協議していく。

② リハビリ研修会について

10月から12月に渡る3回シリーズの研修会について、今回は身体の支援に特化した内容で行ったが、よりポイントを絞った形で考えていかないと講師の方にしてもやりずらさがあったのではないかと反省した。参加者のアンケートには、実践的な実技の講習が好評であった。来年度の研修の要望もお聞きしたが、新しい意見は得られなかった。次年度の研修会は、6月コミュニケーション、9月摂食、12月身体の3本立てで検討していく。

③ どれみ♪ネット(制度外宿泊事業)の報告

1月実施分までの中間報告を行った。(別紙参照)2月と3月にも実施の予定があり最終報告は3月以降となる。また次年度に向けてショートステイについてのアンケートをとり実態の把握を行い、課題整理や実施の目的を改めて確認したい。

④ 30年度関係会議の出席について

今年度までは相談支援部会のぶら下がりとなっていたが、来年度は生活支援部会に入ることの了承を得たことを報告した。

以上

どれみ♪ネット(制度外宿泊事業)29年度報告

問題点

(準備)

申込がまちまちであるため実施決定が直前となってしまう。
直前の決定より、面談→実施までのスケジュールがタイトになってしまう。
初めて関わる方の情報収集、普段の状況把握に費やす時間が必要。
医療機器の操作についての勉強が必要。(バイパップ、人工呼吸器)

(実施)

男女別けての実施や二部屋の使い分けが出来なかった。(申込状況、職員配置の問題)
三人一部屋の環境で、個別に配慮した状況が作りずらかった。(物音等により安眠できない問題)
慣れない環境で食事がとれない、眠れない、排せつがない方がいた。
与薬や医ケアのすべてをダブルチェックできなかった。(深夜・早朝の与薬等)
医ケアのできる職員が常時2名以上必要。(夜勤の配置は2名で設定)
入浴時の人員配置は、3名以上必要。(さらに男女別の職員配置が必要)
初めて関わる方の支援内容への不安から、1名だけの利用で実施した。
コミュニケーションの取り方や普段の就寝時を知らない故の不安があった。

(収支)

利用される方の特徴により、職員配置をその都度考えてきた。(報酬が定まらない)
すべて男女混合での利用となった為、身体介護を行う際の職員配置が予定よりも多く必要となった。
夜間も医ケアのできる職員2名配置とすると看護師2名の夜勤となり予算を超えてしまう。
利用者1名に対し看護師2名で実施をした。(はじめからマイナス収支)
雇用契約の問題から、ボランティアや先方の勤務として参加を頂いたケースがあった。
季節によるの光熱費の設定が必要か。

課題・来年度へ向けて

(準備)

現在、第二・四金曜で実施予定としているが、結果年間6回の実施に留まった。(実施回数を減らす?)
申込期日を設け準備の時間をしっかり取りたい。
利用者の情報収集には、ご家族との面談の他に日中に関わっている事業所との共有を行いたい。
主に夜間に使用している医療機器の操作についての勉強会を行いたい。

(実施)

職員の目が行き届く状況を作るためにも一部屋で行うことが妥当。(男女で別けられない)
就寝時の物音等に対する対策は、現状では困難。(自動車の音でも反応される)
お泊りの経験が少なく、慣れていく為の利用目的もありだが、未経験の方の利用も促したい。
与薬や医療的ケアのチェック体制を再度見直す。
医ケアのほとんどを看護師に任せているが、支援員も内容を理解し補助の役割が持てるようになりたい。
関わる職員の不安や負担を軽減する為にも、利用される方の医ケアの内容を考慮し3名を決定したい。
日中関わりのある事業者の参加協力をお願いしたい。

(収支)

入浴の対応や夜間の必要なケアを考えると職員配置を増やす必要がある。(費用が膨らむ)
利用の方の費用負担について再考したい。

どれみ♪ネット(制度外宿泊事業)29年度報告

実績

実施日	29. 8. 25	29. 11. 10	29. 12. 8	30. 1. 26	30. 2. 23	30. 3. 23
利用人数	3	3	3	1		
うち男:女	2:1	2:1	2:1	0:1		
うち児童	2	0	0	1		

実利用者数	8
延べ利用者数	10

医療的ケアの内容

29. 8. 25

氏名	吸引(鼻・口腔)	吸引(カニューレ)	注入(胃ろう)	注入(経鼻)	バイパップ	人工呼吸器
K. M	○	○	○			
E. I						
M. A	○			○		

29. 11. 10

氏名	吸引(鼻・口腔)	吸引(カニューレ)	注入(胃ろう)	注入(経鼻)	バイパップ	人工呼吸器
M. A	○			○		
Y. K ♂						
K. U						

29. 12. 8

氏名	吸引(鼻・口腔)	吸引(カニューレ)	注入(胃ろう)	注入(経鼻)	バイパップ	人工呼吸器
S. M	○		○		○	
H. N		○				
K. U						

30. 1. 26

氏名	吸引(鼻・口腔)	吸引(カニューレ)	注入(胃ろう)	注入(経鼻)	バイパップ	人工呼吸器
Y. K ♀	○	○	○		○	○

30. 2. 23

氏名	吸引(鼻・口腔)	吸引(カニューレ)	注入(胃ろう)	注入(経鼻)	バイパップ	人工呼吸器

30. 3. 23

氏名	吸引(鼻・口腔)	吸引(カニューレ)	注入(胃ろう)	注入(経鼻)	バイパップ	人工呼吸器

どれみ♪ネット(制度外宿泊事業)29年度報告

収支

29. 8. 25

収入		支出	
介助料3名	42,000	看護師(13h)	19,175
光熱費3名	600	支援員(13h)	16,225
送迎費1名	500	看護師(2h)	2,600
		看護師(2h)	2,600
合計	43,100	合計	40,600

29. 11. 10

収入		支出	
介助料3名	42,000	看護師(13h)	19,175
光熱費3名	600	支援員(13h)	16,225
送迎費2名	1,000	支援員(2h×3名)	6,600 ※入浴対応
		看護師(2h)	2,600
合計	43,600	合計	44,600

29. 12. 8

収入		支出	
介助料3名	42,000	看護師(13h)	19,175
光熱費3名	600	支援員(13h)	16,225
送迎費1名	500	支援員(2h×2名)	4,400 ※入浴対応
		看護師(2h)	2,600
		看護師(2h)	2,600
合計	43,100	合計	45,000

30. 1. 26

収入		支出	
介助料1名	14,000	看護師(13h)	19,175
光熱費1名	200	看護師(13h)	19,175
		ボランティア2名	0 看護師・支援員
合計	14,200	合計	38,350

30. 1. 26まで合計

収入		支出	
29. 8. 25	43,100	29. 8. 25	40,600
29. 11. 10	43,600	29. 11. 10	44,600
29. 12. 8	43,100	29. 12. 8	45,000
30. 1. 26	14,200	30. 1. 26	38,350
合計	144,000	合計	168,550

1. 部会報告

3/13 に第 5 回目の部会を開催。(予定していた第 4 回 1/23 は雪のため中止)
幹事会を部会前に 6 回開催。

- ・地域生活支援拠点（以下拠点）についての検討
- ・関連会議（居宅支援連絡会・日中活動連絡会・グループホーム等連絡協議会・
重心サポート会議）からの報告を受け、情報共有および情報交換
- ・is-net、障害者団体連絡会等の関連団体との情報共有

◆地域生活支援拠点ミニワーキンググループ（以下 WG）を立ち上げ、拠点の検討を開始。

①1/15、②2/19 回の 2 回開催（ランチミーティング形式）※別紙 図を参照

- ① 拠点の整備に向け、WG 内でのイメージの共有
現状できる取組みについての整理と確認など
- ② 報酬改定に伴う拠点に関する部分の確認
およびショートステイ利用の仕組みの検討

今後、H32 年度までの年間計画を作成し取組んでいく予定。

2. 各連絡会・会議等の活動報告

(1) 日中活動連絡会

利用者・家族の高齢化の実態把握のためのアンケート調査を実施し、
集計・分析中

(2) GH 等連絡協議会

GH ニーズ把握のためのアンケート調査を実施し、集計・分析中

- アンケートの結果については、来年度の自立支援協議会にて報告する予定。
- 現時点（中間報告）での、今回のアンケート調査において見えた課題
 - ・サービス未利用の人（就労中含む）のニーズ把握
 - ・セルフプランの居宅介護サービス利用者のニーズ把握
- 両アンケートの結果は、地域生活支援拠点の整備に向けた取組みに活かしていく

以上

2つの段階の**試行**をもとに、事例の「反省と振り返り」を行い、事例を「**つみあげ**」、市川市の実情に合った地域生活支援拠点（主に緊急ショートステイ）の在り方を探る。生活支援部会等へ事例の報告と市内での共有を図る。

① 予防的支援の実施

日中活動連絡会のアンケート結果や各法人に協力要請

緊急SSリスクの高い利用者の**リストアップ**

訓練等給付、地活、アクセス・いちされん。えくる・がじゅまる・計画相談に呼びかけ

“もしも”のための**認定調査**の推進
お試しショートステイの推進
 ※SSの**事前登録**の推進 など

SS事業所等に呼びかけ

② 準備と緊急時支援の実施

以前作成したシートの試行SSとCMに活用要請

緊急SS受付**シート**の活用と見直し

相談支援部会を通じてCMに要請

SS利用後**すぐのケース会議**の徹底

SS先までの移動手段をどうするか問題

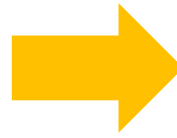
要議論

SS中の**日中活動先**との連携の問題（通所手段等）

要議論

① 当日やSS利用中の対応についての反省、改善点、よかった点
 ② 事前にあればよかった支援の検証

- メンバー※
- 芦田（生活支援部会・えくる）
 - 嶋田（咲楽苑・SS）
 - 森田（いちばん星）
 - 村山（手をつなぐ親の会）
 - 永井（どれみ♪ネット・医ケア）
 - 青村（Mネット）
 - 磯部（生活支援部会 幹事）
 - 松尾（生活支援部会 幹事）
- + 相談支援事業所
 + 各回毎に必要なゲスト



ツール・書式の整備

実際の動きのシミュレーション

など

忘れてはいけないキーワード

事前登録ありの人・なしの人

区分のない人

お金がない人

共生型サービス開始後の介護保険SS利用の可能性

知的・精神・重心・医ケア

なにも使っていない人

コーディネーター

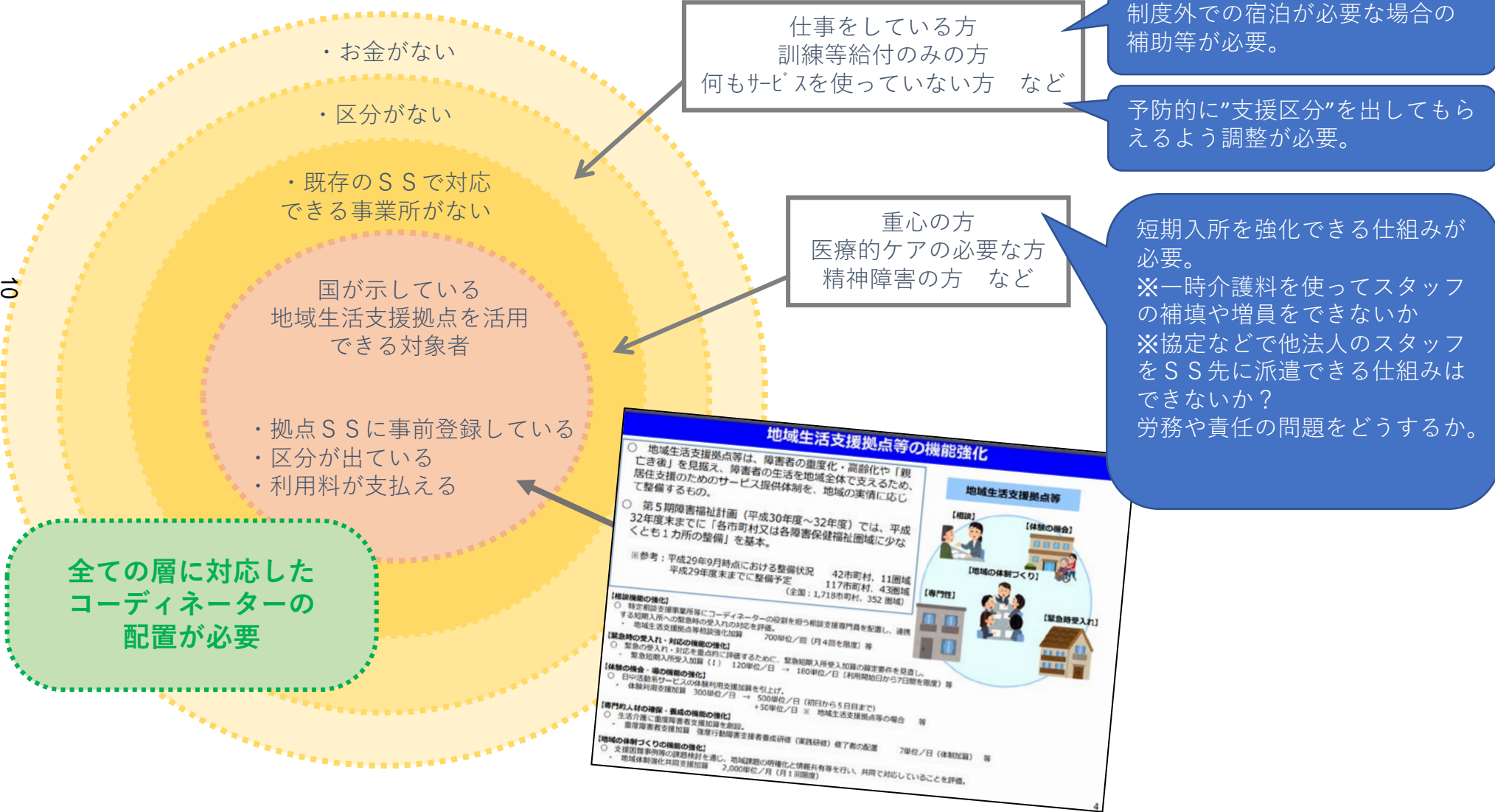
報酬改定による加算の新設

軽度の人の支援

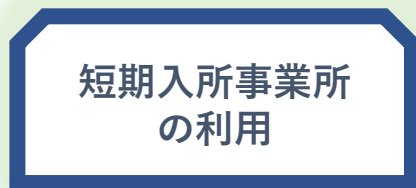
地域生活支援拠点（主に緊急短期入所）を考えるミニワーキンググループ

話合いのポイントまとめ

- スローガン： ①どんな人でも緊急時に安心して宿泊できる支援体制づくり
 ②日中活動に制約を受けずに宿泊できる仕組みづくり
 ③本当に必要な人たちに支援が届くような仕組みづくり



①現状の短期入所



市内事業所における短期入所（SS）利用者は増えている。
しかし、その一方で、SS利用後の支援について十分に検討されていないケースもみられる。ケースバイケース。

地域生活支援拠点の仕組みとして、SSを考える場合、早期にSS利用後の支援の検討が必要（具体的には、利用直後にケース会議にて方針の検討やタイムスケジュールの確認、その後も定期的なケース会議での方針・進捗確認など。）

また、“緊急を緊急にしない為”の予防的な支援（サービスを使えるような下準備（区分・支給決定）や、SSに慣れておくことなど）も併せて必要。

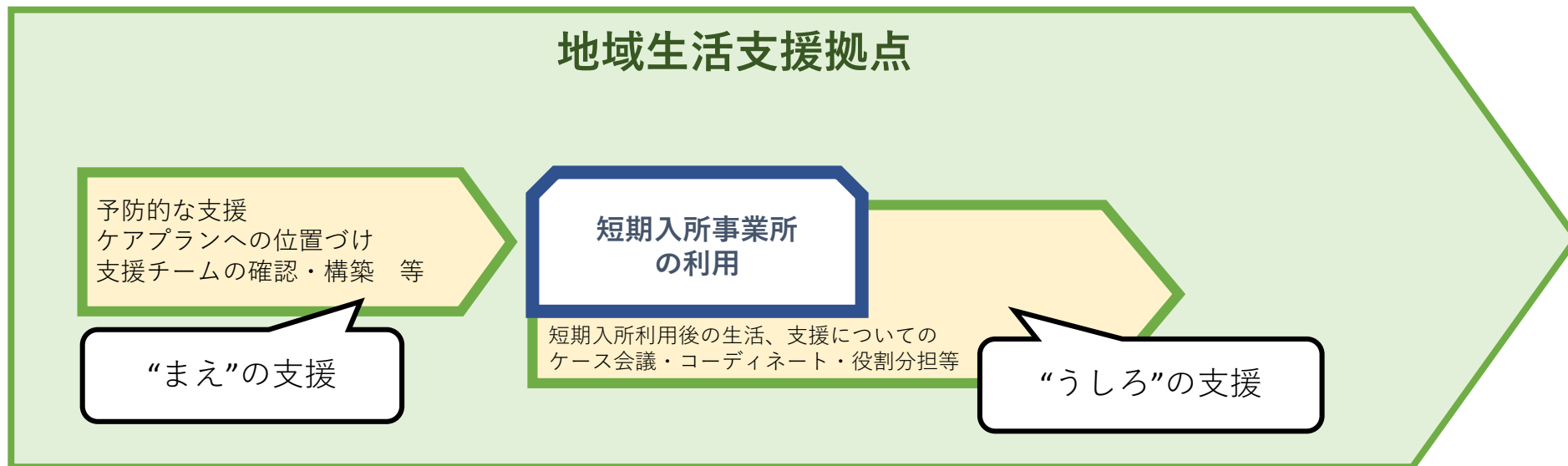
SS事業所

- +“まえ”の支援
- +“うしろ”の支援
- +“仕組み”

をセットとして地域生活支援拠点の機能として考えていきたい。

②地域生活支援拠点の“仕組み”としての短期入所

11



地域生活支援拠点に関する加算の整理 (厚労省資料より)

【相談機能の強化】 相談支援事業所

- 特定相談支援事業所等にコーディネーターの役割を担う相談支援専門員を配置し、連携する短期入所への緊急時の受入れの対応を評価。
 - ・ 地域生活支援拠点等相談強化加算 700単位/回 (月4回を限度) 等
- 地域生活支援拠点等の機能強化

【緊急時の受入れ・対応の機能の強化】 短期入所事業所

- 緊急の受入れ・対応を重点的に評価するために、緊急短期入所受入加算の算定要件を見直し。
 - ・ 緊急短期入所受入加算 (I) 120単位/日 → 180単位/日 (利用開始日から7日間を限度) 等

12 【体験の機会・場の機能の強化】 地域移行支援利用時の日中活動系事業所

- 日中活動系サービスの体験利用支援加算を引上げ。
 - ・ 体験利用支援加算 300単位/日 → 500単位/日 (初日から5日目まで)
 - + 50単位/日 ※ 地域生活支援拠点等の場合 等

【専門的人材の確保・養成の機能の強化】 生活介護事業所

- 生活介護に重度障害者支援加算を創設。
 - ・ 重度障害者支援加算 強度行動障害支援者養成研修 (実践研修) 修了者の配置 7単位/日 (体制加算) 等

【地域の体制づくりの機能の強化】 相談支援事業所

- 支援困難事例等の課題検討を通じ、地域課題の明確化と情報共有等を行い、共同で対応していることを評価。
 - ・ 地域体制強化共同支援加算 2,000単位/月 (月1回限度)

委託の相談事業所でないと難しいのではないかと。



平成 30 年 3 月 23 日 (金)

就労支援部会報告

○就労支援部会としての取り組み

1. 就労支援担当者会議・福祉的就労担当者会議での合同研修の実施

内容：事例をもとに参加者間でのディベート形式による研修の実施

【日程】 平成 30 年 3 月 16 日 (金) 18:00～ 市川市教育会館

●就労支援担当者会議

1. 年間の取り組み

- ①ハローワーク職員による労働関係法令・制度に関する勉強会
- ②就労支援に関する事例検討（会議参加事業所より事例報告・検討）
- ③直 B アセスメントの評価方法に関する検討
- ④就労支援部会研修

2. 次年度の取組について（ワーキングチームを中心とした取り組み）

- ①直 B アセスメントシートの見直し
- ②事業所説明会
- ③定着支援に関する勉強会
- ④雇用促進セミナーへの協力
- ⑤就労支援部会研修

●福祉的就労担当者会議

1. 年間の取り組み

- ①仕事情報の共有（市のホームページ活用・ネット上の掲示版を活用）
- ②支援力強化のための勉強会を実施
 - ：通所者の健康問題
 - ：本人・家族の高齢化に関して
- ③就労支援部会研修

2. 次年度の取組について（ワーキングチームを中心とした取り組み）

- ①支援力強化のための勉強会を予定
 - ：通所者の「性」の問題に関して
- ②仕事情報の共有
- ③雇用促進セミナーへの協力
- ④就労支援部会研修

平成 29 年度第 4 回自立支援協議会 障害者団体連絡会資料

平成 29 年度第 4 回障害者団体連絡会本会議

①各団体の PR や趣旨・活動内容を 1 会議ごとに 2 団体することになった
今回の 2 団体

1. 失語症 なないろ会
2. 公立学校に通う難聴失聴の家族の会

②市からの報告

1. ごみの出し方説明、回答
パンフレットを配布したが、聴覚障害者に配慮があったものの、視覚障害者に対する点字版やデイジーなどの配慮を求めたい
2. 市川市障害者施設民営化の意味、目的、進め方、よかった事、経過報告
役所の準備が整っていないため延期

③市川市障害者団体連絡会の報告

1. 障害者週間の報告
チャレンジドミュージカル参加、ブース出展、啓発バリアフリーハンドブック
配布
2. バリアフリーハンドブック配布報告
自治体、民生委員も含め配布終了
3. 防災プロジェクト報告
アンケート回収の呼びかけ
4. その他

④勉強会 市川市障害者相談支援専門員とは？ IS ネット保戸塚さん

市川市自立支援協議会 委員名簿

	委員氏名	団体名	委員分類
1		中核地域生活支援センター がじゅまる	相談支援事業者
2		基幹相談支援センター えくる	相談支援事業者
3		is-net	相談支援事業者
4		is-net	相談支援事業者
5		is-net	相談支援事業者
6		is-net	相談支援事業者
7			サービス事業者(訪問系)
8			サービス事業者(日中活動系)
9			サービス事業者(居住系)
10			サービス事業者(地域生活支援事業)
11			サービス事業者(地域生活支援事業)
12		千葉県市川健康福祉センター	精神保健福祉関係者
13		和洋女子大学	学識経験者
14		障害者就業・生活支援センター いちされん	就労支援関係者
15		福祉的就労担当者会議	就労支援関係者
16		障害者団体連絡会	障害者団体
17		障害者団体連絡会	障害者団体
18		障害者団体連絡会	障害者団体
19		障害者団体連絡会	障害者団体
20		障害者団体連絡会	障害者団体
21		障害者団体連絡会	障害者団体
22		社会福祉法人市川市社会福祉協議会	権利擁護・地域福祉関係者
23		市川市民生委員児童委員協議会	権利擁護・地域福祉関係者
24			障害児支援関係者
25			障害児支援関係者 (特別支援学校関係者)

市川市自立支援協議会 相談支援部会 委員名簿

	委員氏名	団体名	分類
1		中核地域生活支援センター がじゅまる	
2		基幹相談支援センター えくる	
3		基幹相談支援センター えくる	
4		is-net	指定相談支援事業者
5		is-net	指定相談支援事業者
6		is-net	指定相談支援事業者
7		is-net	指定相談支援事業者
8		is-net	指定相談支援事業者
9		is-net	指定相談支援事業者
10		権利擁護連絡会	
11		地域移行支援協議会	
12		障害者就労支援センター アクセス	
13			自立支援協委員
14			自立支援協委員
15		社会福祉法人市川市社会福祉協議会	

【事務局】

		障害者支援課	
		発達支援課	

市川市自立支援協議会 生活支援部会 委員名簿

	委員氏名	団体名	分類
1		基幹相談支援センターえくる	幹事 基幹相談支援センター・精神
2		社会福祉法人 一路会 かしわい苑	副幹事 通所・GH・レスパイト・知的・重心
3		基幹相談支援センターえくる	副幹事 幹相談支援センター・重心・児童
4		中核地域生活支援センターがじゅまる	相談
5		社会福祉法人 いちばん星	通所・GH・知的
6		社会福祉法人南台五光福祉協会 やまぶき園	入所・短期・相談・GH・知的
7		市川市福祉公社	居宅
8		ヒノデ第一交通株式会社市川営業所	居宅
9		社会福祉法人サンワーク	通所・GH・精神
10		ふれんど舎	相談支援・重心
11		社会福祉法人レンコンの会	グループホーム支援ワーカー
12		市川手をつなぐ親の会	生活ホーム・知的
13		特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS 訪問看護ステーションACT-J	訪問看護ステーション・精神
14		社会福祉法人レンコンの会	レスパイト・知的・南部
15		千葉精神保健福祉ネット ハピネス行徳	GH・精神
16		こころの健康を守る会 松の木会	家族・精神
17		なんなの会	当事者団体連絡会

【事務局】

		障害者支援課	
		障害者施設課	

市川市自立支援協議会 就労支援部会 委員名簿

	委員氏名	団体名	分類
1		障害者就業・生活支援センター いちされん (就労支援担当者会議)	自立支援協委員 (幹事)
2		福祉的就労者担当者会議	自立支援協委員 (幹事)
3		障害者就労支援センターアクセス	関係機関
4		市川公共職業安定所	関係機関
5		市川商工会議所	関係機関
6		千葉県立市川特別支援学校	特別支援学校
7		千葉県立特別支援学校市川大野高等学園	特別支援学校
8		市川市立須和田の丘支援学校	特別支援学校
9		市川手をつなぐ親の会	関係機関
10		就労支援担当者会議	就労移行支援事業所
11		就労支援担当者会議	就労継続支援A型事業所
12		福祉的就労者担当者会議	就労継続支援B型事業所
13		市川市生活サポートセンターそら	関係機関
14		いちかわ・うらやす若者サポートステーション	関係機関

【事務局】

		障害者支援課	
		障害者施設課	

市川市自立支援協議会 こども部会 委員名簿

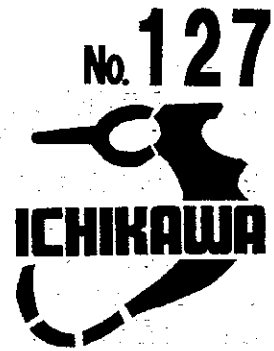
	委員氏名	所属	分類
1		医療機関	医療機関
2		※健康支援課	市行政機関
3		※こども施設運営課(保育園関係)	市行政機関
4		※指導課	市行政機関
5		※教育センター	市行政機関
6		※子育て支援課【必要時】	市行政機関
7		保健福祉センター【必要時】	県行政機関
8		児童相談所【必要時】	県行政機関
9		※あおぞら・おひさま(児童発達支援センター)	児童発達支援センター
10		そよかぜキッズ(児童発達支援センター)	児童発達支援センター
11		こども発達支援センターやわた(児童発達支援センター)	児童発達支援センター
12		児童発達支援事業者(代表)	事業所
13		放課後等デイ事業者(代表)	事業所
14		相談支援事業者(代表)	事業所
15		親の会関係	保護者
16		※えくる	基幹相談支援センター
17		社会福祉協議会(放課後保育クラブ)	保育クラブ運営機関

※こども発達支援会議に出席していた機関

【事務局】

		発達支援課	
		障害者支援課	

さとみ



発行：市川市ろう者協会 発行人：浅野史行 編集：広報部
〒272-0023 市川市南八幡2-24-19 (朝香敬子方) 市川市ろう者協会事務局
FAX：047-711-2265 mail：asahi0485@gmail.com

「手話言語」ミニタウンミーティングを開催

10月30日(月) 於全日警ホール第3会議室 66名参加



手話言語条例制定の意義について説明する植野・県協会理事長

内では習志野市に手話言語に関する条例が制定されています。

また全国手話言語市区長会については368市区長が入会しており、千葉県では24市の市長が加入していますが市川市は未加入です。(8月24日現在)

◆今回のミニタウンミーティングは、こうした状況を鑑みて、歴史的にろう教育、ろう者の文化、手話と関わりの深い街である市川市に手話言語条例制定を実現するために必要な事柄(附属聾学校の歴史、全国手話言語市区長会、手話言語条例の意義)について社会への理解啓発を行い、今後の取り組みについて考えていくことを目的に開催されました。

◆10月30日(月)の夜7時~9時、市内八幡の全日警ホール(旧・市民会館)第3会議室にて、市川市「手話言語」ミニタウンミーティング(市川市ろう者協会主催、市川市手話サークル輪の会・同汐風・千葉通研市川班共催)が開催されました。

◆全国の状況を見ると、10月19日現在で108自治体(13県/84市/11町)に手話言語条例が制定されています。千葉県では昨年6月に「手話言語等の普及の促進に関する条例」が制定されたほか、県

◆当日は市議会の健康福祉委員会委員長、同委員の出席はありましたが、11月26日に市長選挙を控えていることもあってか議会・行政関係者の出席が低調であり、開催案内の出し方、時期についてなどに課題が残りました。

(報告：浅野史行)

※全国手話言語市区長会

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、聴覚障害者に対する情報保障の環境整備を進め、全国の自治体における施策展開の情報交換等を行うため、2016年6月に設立されました。都道府県単位の同様の組織として「全国手話言語知事の会」が設立されており、全47都道府県知事が加入しています。

※当日の参加者の内訳と人数；

市会議員 2名、行政関係 3名、市協会 21名
手話サークル 22名
一般(ろう2名、その他4名)
養成講座受講生 12名 計 66名
(うち市登録手話通訳者の参加 12名、不参加 3名)

秋のデフトラベル2017

期間：11月18日(土)～19日(日)
行き先：伊香保温泉(石段街等)

【1日目】

- 参加者数：13名
市協会9名、輪の会1名、
汐風2名、準会員1名
- 6:30 JR市川駅 集合
 - 6:50 JR市川駅 出発
 - 7:26 JR新宿駅 着
 - 8:05 バスタ新宿駅(新宿駅新南口) 出発
(高速バス)
 - 9:39 上里SA 着 (休憩)
 - 9:59 上里SA 出発
 - 10:35 伊香保温泉石段街 着
石坂旅館に荷物を預けて大正浪漫黒船屋へ行き、
石焼鱈汁カレーを完食(?) 伊香保神社を一応参拝
→ロープウェイ(不如帰駅⇄見晴駅)で山頂へ→山頂
の見晴駅から赤城山・谷川岳を一望。
全日本ろうあ連盟の2つの記念碑前で記念撮影
 - 15:00 石坂旅館にチェックイン後、18時まで自由行動
 - 18:00 夕食(～20時) その後交流会



全国ろうあ運動発祥地の記念碑

全日本ろうあ連盟の創立
準備委員会は、市川市
(附属聾学校)で開催さ
れました…! @_@.

【第2日目】

- 8:30 チェックアウト、石坂旅館玄関前で記念撮影。
竹久夢二伊香保記念館へ移動中、全日本ろうあ連盟記念碑の前
で千葉市聴覚障害者協会のグループと遭遇、記念碑の前とは
すごい偶然だった!
- 9:00～11:30 竹久夢二伊香保記念館 見学
- 11:30 タクシーに分乗して水沢うどん田丸屋へ。
名物の「ざるうどん」を完食後、時間が余ったので水沢観音
まで行って散策
- 14:31 渋川駅行バスで「水沢観音」出発
- 15:00 渋川駅着
- 15:52 高崎線快速アーバン「上野行」乗車
- 18:05 上野駅着、ホームで解散



デフトラベル2017に参加して

今回の温泉地はお気に入りの伊香保温泉、ろうあ運動発祥の記念碑が建立された事でその思いを馳せて感じとりたいと思い、2年ぶりの参加です。石段街を見上げた時、相変わらずの賑わいでフリーの時間に2時間程、石段を何度も往復したり、お店を覗き込んだり楽しみました。そのような温泉風情が好きなところ。日本ろうあ連盟結成の地としての記念碑が2カ所ある事自体に驚かされました。戦後間もない頃に全国から約200名のろうあ者が集結した背景を想像すると絶句してしまいます。改めてろうあ者の行動のパワーがいかに凄いか感じとれました。記念碑の建立に協力して頂いた渋川市、ホテル小暮さんに感謝の気持ちでいっぱい。出発前は雨の予報で伊香保ロープウェイは見送っていたのですが、皆さんの日頃の行いが良かったのか?行けました。所々に霧がかかっている幻想的な風景と紅葉が素晴らしかったです。また竹久夢二記念館も見応えがありました。旅館の宴会は、とても美味しく楽しく過ごせてGoodでした。そして昼食の大正浪漫黒船屋の「くつつ石焼カレー」、水沢うどんも美味しく頂きました。時間が余ったので、水沢観音へ参拝しました。今回のデフトラベルでは想定外が二つ、昼食の黒船屋で合気道の仲間に偶然出会った事と宴会で日本の祭りの踊りを上手に披露していたHさんが足をつってしまった事です。Hさん、その後は大丈夫でしたか?とても楽しく良い旅でした。市川市ろう者協会のスタッフの皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。(S.O)

冬季デフトラベルさとみのお案内

参加費
無料

- 日時 平成30年1月28日(日) 14時～16時半(受付開始13時半～)
- 場所 市川公民館 3階視聴覚室(市川市市川2-33-2) JR市川駅北口から徒歩3分

内容 ★トークショー

ゲスト 河野 翔(こうの しょう)氏
(デフリンピックに3回出場されました。4～5頁をご覧ください。)

定員
50名

★講演「ろう者として起業すること」

講師 柳 匡裕(やなぎ まさひろ)氏

【プロフィール】

一般社団法人ありがとうの種 代表理事。
グラフィックデザイナーや車両研究開発、障害者就労支援業を経て、障害者の就労に対する厳しい現実を体感。障害者が「ありがとう」と言われ、自尊心をもてる社会の実現を目指し、スープカフェ-Social Café- Sign with Meを開業。現在、東京大学赤門前と東京ドーム前に2店舗展開。他に手話普及にも力をを入れており、現在3つの大学で非常勤講師も務めている。今年9月には手話でいきる子どもの学習支援「あ～とん塾」も開塾。スープカフェHPは <http://signwithme.in/> 学習支援HPは <http://artn.jp/> からご覧いただけます。



デフサロンさとみ参加お申込みは
以下のとおりお願いします。

- 申込期限：平成30年1月20日(土)
(定員に達し次第、締め切ります。)
- 申込先・問合せ先
市川市ろう者協会事務局 朝香敬子
FAX 047-711-2265
メールアドレス
asahi0485@gmail.com

※お名前・所属団体名(市協会、輪の会、汐風、市川班、受講生、その他)を記入の上、FAX又はメールでお申込みください(様式随意)。

新年会

- 日時：平成30年1月28日(日) 17時～19時
- 会場：山内農場 市川北口駅前店
(ダイエー市川店地下2F)

●参加費：①会員(市協会、輪の会、汐風、市川班、受講生) 4,000円
②上記以外の方 4,500円

- 定員：30名
- 申込期限：1月20日(土) 定員に達し次第、締め切ります。
- 申込み先・問合せ先：井田 渉 FAX 047-372-1181
メールアドレス ww26.nn40.kk20@docomo.ne.jp

※お名前・所属団体名(市協会、輪の会、汐風、市川班、受講生、その他)を記入の上、FAX又はメールでお申込みください(様式随意)。
※お申込み後、キャンセルされる時は、必ず担当までご連絡下さい。
1月20日(土)以降にキャンセルされる場合、参加費全額をいただきます。

(前頁の続き) 秋のデフトラベルに参加された方からの感想です。



上里SAの芋饅頭、超旨! 伊香保の石段365段ちゃんと登れた、あーしんど。お昼のカレー極旨! 全国聾唖連盟結成大会記念碑と結成の地碑に感動感動。石坂旅館の湯、気持ち良かった2回も入った。さてさて楽しいばかりの最後の最後に忘れられない出来事が。帰りの電車、車輛不具合の為3つ目の駅で乗り換えてのアナウンス。音声情報のみにて終了。ろうあ者が置かれている現実を忘れないでと言われたみたいだった。忘れないよ、私。 Y・N(汐風)



7月18日～7月30日、トルコ・サムスンで開催された
デフリンピックに出場(3回目)!!

この しょう 河野 翔さんに聞きました

2017
SAMSUN
23'SUMMER/23.YAZ
DEAFLYMPICS

Q. 市川市に何年間お住まいですか?

A. 初めて市川市に越してきたのは1996年(平成8年)3月です。家族や自分の仕事の関係で転入転出を繰り返しましたが、合算すると市川市には約9年住んでいることになります。

Q. サッカー歴と、始めたきっかけを教えてください:

A. 小学3年(9歳)のときクラスメイトに誘われたのがきっかけです。9歳から続けているので、サッカー歴は20年になります。

Q. 本格的にサッカーに取り組むようになったのはいつ頃ですか?

A. 中学の部活でサッカー部に入ってから、本格的に始めるようになりました。それからは毎日朝練、午後練と練習漬けの日々でした。

Q. サムスンデフリンピックは3回目のデフリンピック出場ですが、これまでに出場した主な大会の成績等を教えてください。また初出場のとときと比べて、試合に臨んだときの気持ちに変化はありましたか?

A. 私が出場した2009年(平成21年)台北デフリンピック以降の国際大会の代表チームの成績を挙げます。

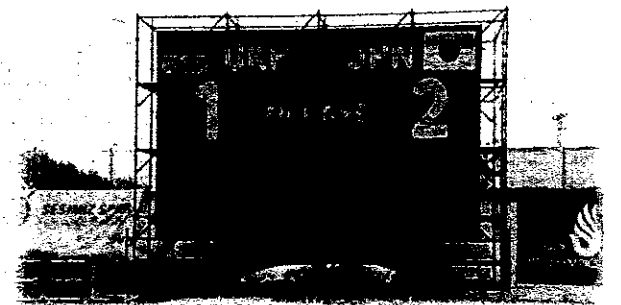
(試合数および個人成績)

- ・2009年(平成21年) 第21回夏季デフリンピック(台湾・台北)
予選敗退 総合12位(3試合出場)
- ・2011年(平成23年) 第2回アジア大会(韓国・昌原)
4位(5試合出場4得点)
- ・2012年(平成24年) 第8回アジア太平洋ろう者体育大会(韓国・ソウル)
初優勝(5試合出場1得点)
- ・2012年(平成24年) 第2回ワールドカップ(トルコ・アンカラ)
ベスト8【代表辞退のため不参加】
- ・2013年(平成25年) 第22回夏季デフリンピック(ブルガリア・ソフィア)
予選敗退 総合14位(4試合出場)
- ・2014年(平成26年) 第3回アジア大会(イラン・キーシュ島)
3位【代表辞退のため不参加】
- ・2015年(平成27年) 第9回アジア太平洋ろう者体育大会(台湾・桃園)
準優勝(5試合出場)
- ・2016年(平成28年) 第3回ワールドカップ(イタリア・サレルノ)
総合11位(5試合出場1得点)
- ・2017年(平成29年) 第23回夏季デフリンピック(トルコ・サムスン)
予選敗退(3試合出場)

代表キャップ: 30試合出場 6得点



河野さん(背番号13)



〔7月19日 ウクライナ戦〕 念願の初勝利!

国際大会初出場の2009年台北デフリンピックでは予選リーグ全3試合に出場しましたが、デフリンピック独特の雰囲気もあり、極度の緊張で思うように身体が動かなかったのを覚えています。当時は身体の芯が細く大柄な外国人の選手に当たり負けしてしまいました。これを教訓に8年間、フィジカルトレーニングを中心に鍛えてきたことで約10kg体重が増えました。

今年7月のサムスンデフリンピックでは、予選リーグ初戦で優勝候補のウクライナを相手に当たり負けすることなく初勝利をあげることができました。また、8年前と比べて今回は予選リーグ全3試合を90分間、最後まで冷静にプレーすることができ、心身ともに大きく成長したことを実感しました。



試合前の国歌斉唱。大会ルールにより補聴器を外してプレーするため、国歌が全く聞こえません。日本選手団の手話通訳士が「君が代」を通訳したおかげで初めて全試合、国歌斉唱することができました。(右から3番目: 河野さん)

Q. 普段の練習について教えてください。

A. 今年7月まで、平日は週1回、江戸川区にある人工芝の練習場で夜20時から22時までチーム練習に参加し、週末は練習試合やチーム練習に参加していました。また、個人トレーニングとして週2回、ジムに通ってウェイトトレーニングに励みました。

Q. 今後の目標を聞かせて下さい。また、次代のろう青年へのメッセージをお願いします。

A. デフリンピックに出場するアスリートを「デフリンピアン」といいます。デフリンピアンとしてデフリンピックに出場するということは、耳が聞こえない人たちの代表というよりも、日本国民を代表して日の丸を背負い、世界を相手に闘うというスタンスで一般のオリンピックアスリートと変わりないと思っています。

しかし、知名度の低さから満足な支援を受けられない、または勤務先の理解を得られず、これまでデフリンピックを諦めた代表選手が大勢います。デフリンピアンになる目標、聴覚障害を持っている子供たちの夢を与えるためにもデフリンピックの存在をもっと周りに知ってもらう必要があります。

これまでの経験と想いを次世代へ伝えて日本ろう者サッカーの明るい未来へ繋げ、デフリンピックに対する知名度の向上、選手達を取り巻く環境の改善に向けて今後もPR活動を続けていきたいと思っています。

◆第42回 いちかわ市民まつり◆

11月3日(金・祝)10時~16時、大洲防災公園で「第42回いちかわ市民まつり」が開催され、ろう協・輪の会・夕風・市川班が合同で参加しました。テント配置は昨年と同じ30番でしたが、搬入時間は昨年より遅く7時45分~8時15分なので、朝7時半に集合しテントの設営準備をしました。

テント内で「バザー・カンパ・ゲーム」の3グループが行えるように設営しました。準備時間が開始まで2時間しかなかったが、実行委員や協力者が頑張ったのでスムーズに準備できました。10時にスタートし、「バザー・カンパ・ゲーム」3つのグループに分けて行いました。狭い為、工夫しながら活動しました。

今回のいちかわ市民まつりでは、昨年と違って、グルメや野菜販売やフリーマーケットだけでなく、様々なゲームや体験、住まいに関するアンケートや無料相談が多くにぎやかだった。おまつり広場に参加した団体は、全部で173団体でした。

今年の市民まつりは、4団体連絡会のうち、ろう協が当番でしたが、実行委員の協力で準備から当日の運営まで無事に進めることができました。実行委員の皆様、バザー品を提供して頂いた皆様、当日協力して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

【報告；百瀬由紀子】

●いちかわ市民まつりの集計金額は次号にてお知らせします。

●参加人数【44名】

- ・ろう協；12名
- ・輪の会；20名
- ・夕風；1名
- ・市川班；2名
- ・受講生；8名
- ・小人；1名



カンパ活動に協力してくれた受講生の皆さん

総武ブロック

一斉街頭カンパ活動を実施！

12月2日(土)10時~14時 JR津田沼駅 北口・南口
千葉県ろう重複障害者施設をつくる会と千葉聴覚障害者情報提供施設運営事業後援会が一本化してから、初めての街頭カンパ活動でした。カンパ金額は次号にてお知らせします。



台風、荒天のため、以下の行事が中止になりました。

- ◆総武ブロック一斉街頭カンパ活動(9月17日)
- ◆行徳まつり(10月29日)
- ◆第14回千葉県聴覚障害者団体対抗ソフトボール大会(10月29日)

年末年始の急病診療は下記のとおり行います。診療日12月30日(土)~1月4日(木)

●市川市急病診療所

診療時間 昼間 午前10時~午後5時
夜間 午後8時~午後11時
診療科目 内科・小児科・外科

●市川市休日急病等歯科診療所

診療時間 午前10時~午後5時
診療科目 歯科(応急処置)

市川市急病診療・ふれあいセンター(市川市大洲1-18-1)

FAX 0120-637-119 電話 047-377-1222

ピア・カウンセリング市川(12月~3月)

※5月8日から市役所 障害者支援課が 仮本庁舎に移転しました。

29年度も市役所 障害者支援課 で実施します！

「ピアカウンセリング」とは、同じ障害を持った人が仲間(ピア)として相談を受け、自らの経験をもとにアドバイスしたり、一緒に考えたりします。

日時：月2回、第2火曜日・第4火曜日 午前10時~12時(場所：市役所仮本庁舎 2階)
平成29年12月12日、12月26日、
平成30年1月9日、1月23日、2月13日、2月27日、3月13日、3月27日
カウンセラー：植野 都

※ご希望の方は、事前にご予約くださるようお願いいたします。

予約連絡先：障害者支援課(平成29年5月8日からFAX番号が変わりました)
FAX 047-712-8727 (☎ 047-334-1111)

相談内容：教育(親子)、人間関係、職業、健康、介護、医療、結婚、離婚、出産、子育て、コミュニケーション等、気になること、悩んでいることなどをお気軽にご相談下さい。

相談内容の秘密は絶対に守りますので、安心して一緒にお茶でも飲みながら、お話ししませんか。



【市川市からのお知らせ】

手話通訳の派遣を依頼するときは、障害者支援課へ

市川市の「手話通訳者派遣事業」は、市役所「障害者支援課」で行っています。手話通訳の派遣を依頼するときは、障害者支援課にご連絡ください。

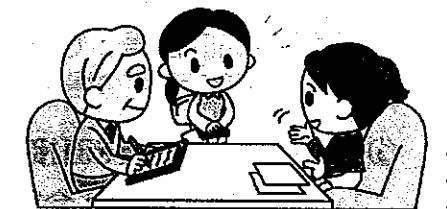
連絡先 FAX：047(712)8727(平成29年5月8日から変わりました)
電話：047(334)1111

受付時間 月曜日~金曜日 午前8時40分~午後5時00分
(土・日・祝祭日・年末年始はお休みとなります)

申請方法 FAX・窓口での申請をお願いいたします。

派遣時間 午前8時~午後10時まで

費用 無 料



不明な点がございましたら、市川市役所障害者支援課までご連絡をお願いいたします。

■連絡先 市川市役所 障害者支援課
(平成29年5月8日から変わりました)

FAX：047(712)8727 障害者支援課直通

電話：047(334)1111 市川市役所(電話番号変更ありません)

担当(手話通訳者 北島・奥山・松岡)まで

会員募集中!

ぜひ

平成28年度は59名(目標65名)でした。

29年度会員数 62名(12月1日現在)

市川市ろう者協会にご入会ください!

会費のご説明

29年度もぜひ会員継続をお願いいたします。

- ◆市川市ろう者協会の会費：単体会費2,000円、夫婦会費3,000円
- ◆(社福)千葉県聴覚障害者協会の会費：1名につき15,000円<減免制度あり。下記参照>
- ◆会費は市会費・県会費の一括納入をお願いしています。29年度もぜひ一括納入にご協力ください。
<市川市ろう者協会のみ入会の場合の会費は5,000円です。(市外のろう者のみに適用)>
- ◆千葉県協会体育部会員(全国ろうあ者体育大会、関東ろう者体育大会に参加希望の方)の会費は、必ず市川市ろう者協会を経由して納入することになっています。ご協力ください。

<減免制度適用後の会費(実際の納入額、1年分)>

(社福)千葉県聴覚障害者協会会費	15,000円/1名				
一人または一組の県協会会費 <実際の納入額>	減免額 高齢者:2,000円/1名 夫婦:2,000円/1組(夫婦の場合1名につき1,000円減額)				
	会員	高齢者	夫婦	夫婦の一方のみ高齢者	夫婦ともに高齢者
	15,000円	13,000円	28,000円	27,000円	26,000円
市川市ろう者協会	2,000円	2,000円	3,000円	3,000円	3,000円
合計の納入額	17,000円	15,000円	31,000円	30,000円	29,000円

※県協会会費(1名分)には、下記の登録料が含まれています:

全日本ろうあ連盟登録料:2,500円 関東ろう連盟登録料:500円

■会費お払い込みの方法(3通りあります。)

①郵便局備え付けの振替用紙をご使用の場合

口座加入者名:市川市ろう者協会

口座番号:00140-9-151023

②他金融機関(銀行など)からのお振り込みの場合

振込用口座番号:〇一九(ゼロイチキユウ)店(019) 当座 0151023

※①②をご利用の場合、申し訳ありませんが、手数料をご負担くださるよう、お願いします。

③当協会理事に会費を直接お預けになる場合、まずは下記宛にお問い合わせください。

市川市ろう者協会 会計部 会費等集金担当 立本和子 FAX 047-396-4727



市川市ろう者協会 月例理事会; 開催日:毎月第1金曜 19時~21時
会 場:市川公民館 第1会議室

傍聴大歓迎!

当協会に関するお問い合わせは、下記宛にお願いします:

市川市ろう者協会事務局(朝香敬子)

FAX:047-711-2265

mail:asahi0485@gmail.com

市川市ろう者協会会報 さとみ第127号

平成29年12月9日発行

発行人 浅野史行 編集人 広報部

発行 市川ろう者協会

さとみ



発行：市川市ろう者協会 発行人：浅野史行 編集：広報部
〒272-0023 市川市南八幡2-24-19 (朝香敬子方) 市川市ろう者協会事務局
FAX：047-711-2265 mail：asahi0485@gmail.com

お知らせ

陽春デフサロンさとみ

&

平成30年度定期総会

傍聴大歓迎

※総会は、会員以外の方もオブザーバーとしてご出席になれます（議決権はありません）。

市川市ろう者協会の「陽春デフサロンさとみ&平成30年度定期総会」を下記のように開催いたします。

どなたも傍聴できますので、おおぜいの方のご出席をお待ちしております。

会員（平成29年度会費納入者）の方には、総会資料と出欠はがきを同封いたしました。総会の成立には会員の過半数の出席（委任出席を含む）が必要です。お手数ですが、総会資料に同封された出欠はがきにご記入の上、締切日までに当協会事務局までご返送ください。なお、同封の総会資料を当日ご持参くださるよう、お願いいたします。

★ 平成30年4月8日(日) 午後1時～午後4時半（開場：12時半）

★ 市川公民館 3階視聴覚室（市川市市川2-33-2）JR市川駅北口から徒歩約3分

【お問合せ先】文化レク部長 大下晶 までお願いいたします。

FAX 047-372-3417

メールアドレス good_faith194835akiraoh@docomo.ne.jp

13:00～14:00

陽春デフサロンさとみ

トークショー

ゲスト 伊藤修一氏

テーマ 「私と絵」

(5分休憩)



14:05～15:30 平成30年度 定期総会

(10分休憩)

15:40～16:30 役員選挙

※時間・内容を変更することがありますが、ご了承ください。

皆さまのご参加をお待ちしております。

2月の市議会で手話言語条例の質問が…!

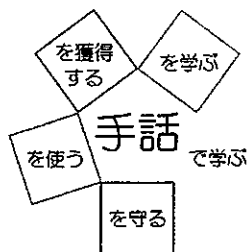
2月26日(月)から市川市議会の2月定例会が開かれていますが、27日の各会派代表質問で、石原みさ子議員(清風会)が市の福祉行政に関して次の質問をおこないました;

(1) 手話言語条例について

- ア. 千葉県手話言語条例に定められている市町村の役割に対する本市の認識及び取り組み状況
- イ. 今後の方向性

(2) 全国手話言語市区長会に入会する考えについて

以下、市の福祉部長とのやりとりです;



福祉部長の答弁

- 市では手話通訳派遣事業を実施しているほか、障害者支援課に手話通訳者を配置して対応している。
- 平成4年度から初歩的な市民手話教室を、平成10年度から手話奉仕員養成講座を実施している。
- 県条例制定後の新規事業として、
 - 平成28年度から、市主催の行事には(聴覚障害者の要請がなくても)手話通訳と要約筆記者を派遣している。
 - 平成29年度から、高齢難聴者のための「聞こえのサポーター養成講座」を開催している。
- 現在おこなわれている公民館主催の市民手話教室を含めて、手話を学ぶ機会がさらに増えるよう関係機関に働きかけをおこなうなどして、聴覚障害者の円滑な意思疎通が可能となる環境作りに努めたい。
- 全国手話言語市区長会入会については、これまで具体的に検討したことはない。研究して今後の方向性を考えたい。

石原議員

- 千葉県内54市町村の半数が全国市区長会に加入しており、東葛地域では市川市以外のすべての市が加入している。このままでは情報獲得面でも市川市は取り残されてしまうので、ぜひ入会を前向きに検討してほしい。
- 現在の市の取り組み状況について、さらに一歩進めて具体的な取り組みについて市の見解を聞かせてほしい。

福祉部長

- 市の障害者週間のイベントの機会に手話等の取り組みをおこなうことを検討したい。

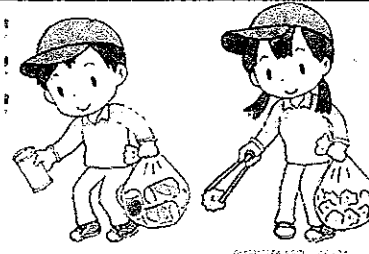
石原議員

- 市役所仮本庁舎で、月～金の9時～17時は手話通訳者、月・木の9時～17時は要約筆記者がいて聴覚障害者の相談に対応しているが、大柏出張所や行徳支所に手話通訳者等を必要とする方が来訪したとき対応できない状況と思う。郡山市ではライブネット郡山という仕組みで、行政の各施設の窓口にタブレットを置き、聴覚障害者が障害者支援課の手話通訳者と手話でやりとりして、手話通訳者が担当部課につなぐことをやっている。ぜひこうした取り組みを研究してほしい。
- いま市議会を聴覚障害者が傍聴している。手話通訳者もいるが傍聴人の扱いなので、傍聴席に着席してもらうということだった。県議会のTV中継では画面右下に手話通訳が写っていて、聴覚障害者も県議会でいま何を言っているのか分かる。市川市議会でもTV中継はあるが、字幕もないので聴覚障害者にはいま何を言っているのか分からない。県手話言語条例の第5条を考えても、いまの状況は納得が行かない。こうした課題があることを指摘しておきたい。

※ 以上の内容は、You-Tubeで公開されている市川市議会チャンネルの字幕表示をまとめたもので、パソコンやスマホで見ることができます。字幕表示はGoogleの機械翻訳なので意味を把握するのが困難な箇所が多いのですが、意味を推理するのも楽しみ?!)

4月頃には市議会の公式議事録(PDF)が市議会のホームページに掲載されるはずですから、ぜひそちらの方も閲覧してください。

(浅野史行)



首都圏の水ガメで熱い場である
江戸川をきれいにしよう

江戸川クリーン大作戦に参加しませんか

市川市では今年も環境美化事業の一環として、多数の市民団体の協力を得て、江戸川河川敷に散乱する空き缶や紙くず等の拾集を実施いたします。当協会も団体で参加しますので、当日ご協力くださる方を募ります。多数の方のご応募をお待ちしています。

■：平成30年**5月26日(土)** 午前9時から1時間程度

今回は日曜日から土曜日に変わったよ!

(1)集合時刻：午前8時50分

(2)集合場所：江戸川の根本排水機場(京成電鉄「国府台駅」徒歩3分)

(水色ののぼり旗を目印にお集りください。)

■内容：江戸川河川敷に散乱する空き缶や紙くず等の拾集

■拾集場所：江戸川河川敷(根本水門の上下流の河川敷を清掃します。)

当日飛び込み参加でも大歓迎!!

■参加申込・問合せ：井上雅博(市川市ろう者協会理事)

FAX 047-371-2766

携帯メールアドレス olympiays-11ana@softbank.ne.jp

■申込期限：平成30年5月12日(土)

※参加者の軍手の数を市に連絡しますので、期限までにお申込みください。

■用意するもの：熱中病予防のための帽子、水筒、タオル、火ばさみ、マスク、ゴーグルなど
※軍手とごみ袋はこちらで用意します。(市川市から支給)

日程・会場ようやく決定!!

詳細は追々お知らせしていきます。

手話を考えるフォーラム2018 in 市川

日程 平成30年9月8日(土)～9月9日(日)

会場 千葉商科大学 7号館

市川市国府台1-3-1

京成「国府台」駅下車徒歩約8分

京成バス市川松戸線「和洋女子大学」下車すぐ



←大学食堂「The University Dining」
メニューを六本木の一流シェフが監修するなど、
新聞でも話題となった学食。一般市民も利用可能

冬季デフサロンさとみは大好評でした!

日時 平成30年1月28日(日) 14時~16時半

場所 市川公民館 3階視聴覚室

参加者数: 42名(市ろう協 19名 輪の会 7名 汐風 1名 市川班 2名 受講生 13名)

★トークショー ゲスト 河野 翔氏(聞き手 広報部長)

デフサッカー選手として、デフリンピックに3回出場。裏話などお話しされました。デフリンピックの知名度の低さから十分な支援を受けられない、また勤務先の理解を得られず、デフリンピックの選手を断念した方が多くいるので、これまでの経験と想いを次世代へ伝えてデフサッカーの明るい未来へ繋げ、デフリンピックに対する知名度の向上、選手たちを取り巻く環境の改善に向けて今後もPR活動を続けていきたいとお話にデフリンピックの現状を知りました。私たちにもできることがあれば、協力したい…。



★講演「ろう者として起業するということ」 講師 柳 匡裕氏

【プロフィール】

一般社団法人ありがとうの種 代表理事。
グラフィックデザイナーや車両研究開発、障害者就労支援業を経て、障害者の就労に対する厳しい現実を体感。障害者が「ありがとう」と言われ、自尊心をもてる社会の実現を目指し、スープカフェ-Social Café-Sign with Meを開業。現在、東京大学赤門前と東京ドーム前に2店舗展開。他に手話普及にも力を入れており、現在3つの大学で非常勤講師も勤めている。
今年9月には手話でいきる子どもの学習支援「あ〜とん塾」も開設。
スープカフェHPは <http://signwithme.in/> 学習支援HPは <http://artn.jp/> からご覧いただけます。



柳さんのお話を聞いて、新鮮で驚きました。とても共感し、私の気持ちをすべて言葉にしてくれたと感じたほどです。

前に、「健聴者は手話をいつでもやめられる。ろう者は一生やめられない」という言葉を聞いたことがあります。私はそれを聞いて、とても残念に思いました。人はみな、生まれる時に自分の状況を決められません。性別も親も、選べません。生きづらいつ感じるのは、ろう者も健聴者も同じだと思います。人はみな同じだと思うのです。

私も、自分では変えられない境遇に苦しんだ時期がありました。でも今は、なんでも自分次第だと思えます。この家に生まれたから、女だから…。周りから何と思われようが、私は私が生きたいように生きる! 私の人生は、私だけのものだから。耳が聞こえないという理由で、行動を制限していませんか? 自分の思いを伝えることを諦めていませんか?

あなたの夢は何ですか? 叶えるためにどんな努力をしていますか? (受講生: Mさん)



講演に参加して非常に心に残った事はお二人とも大きな目標を持ち、それを目指すために努力をしていると実感しました。やろうと思えば必ずできるというモチベーションが高いと感じられました。貴重な内容を聞いていろいろと勉強になりました。自分を見つめ直して目標を意識しながら行動していきたいと思いました。ありがとうございました。(SKさん)

新年会(交流会) 17時~19時半

参加者数: 21名
市ろう協 13名 輪の会 2名 受講生 4名
招待(講師 柳氏)、
顧問 千葉光行先生にもご出席いただきました。

市川市4団体合同日帰りツアー!

平成29年12月10日(日)

- ・都立横網町公園(東京都慰霊堂・復興記念館)
- ・お台場海浜公園
- ・そなエリア東京

親子組が何人か参加されました。

ほんの少しでしたが、防災についての知識を身につけることができました。

参加人数 33名

市ろう協会 9名、輪の会 12名、汐風 2名、
受講生 7名、子供 2人、非会員 1名



水上バス・ゆりかもめで
そなエリア東京へ!

そなエリア東京



ご協力をありがとうございました!!

千葉県聴覚障害者後援会(旧・千葉県ろう重複障害者施設をつくる会)へ
以下のとおりの募金額を送りました。

◆第42回 いちかわ市民まつり 平成29年11月3日(金・祝)

カンパ	59,229円
バザー	55,594円
計	114,823円



◆総武ブロック一斉街頭カンパ活動 平成29年12月2日(土)JR津田沼駅 65,429円



第66回全国ろうあ者大会 大阪

笑てんが楽しんでや 2018年6月7日(木)~10日(日)
大阪で手話の祭典 於:大阪城ホール

参加ご希望の方は、千葉県聴覚障害者協会企画室までお申込みください。締切日 4月6日(金)

平成30年版「資源物とごみの分別ガイドブック」が改訂されました。

当協会が幾度となく要望してきた「問合わせ・連絡先」の電話番号欄に、ようやくFAX番号またはメールアドレスが記載されるようになりました。まだまだ十分ではありませんが、少しずつ改善されて、誰にも暮らしやすい市川市になっていくように願っています。

資源物とごみの分別ガイドブック 保存版

ゴミ、引越しゴミ、大型ゴミ 無料で見積致します!

種類	料金
紙屑(10kg)	1,000円
生ゴミ(10kg)	2,500円
資源物(10kg)	500円
その他(10kg)	1,000円
大型ゴミ(10kg)	1,500円

進功業 一般廃棄物収集運搬業者(市川市許可番号 33)

02-7825 047-302-7826

www.dalshin-kogyo.net

047-712-6317 FAX 047-712-5320

047-712-6001 FAX 047-712-5002

047-712-6003 FAX 047-712-5002

047-334-1111

047-334-2225 FAX 047-334-2000

047-712-5318 FAX 047-712-5320

047-580-5533 FAX 047-371-4465

0180-318-040

050-3000-0727

03-5233-7535

03-5529-6773 FAX 03-5529-6774

047-334-2011

047-327-0100 FAX 047-327-6322

ピア・カウンセリング市川(3月~6月)

平成30年度も 市役所仮本庁舎 障害者支援課 で実施します!

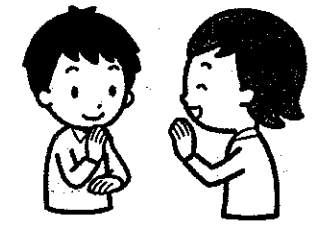
「ピアカウンセリング」とは、同じ障害を持った人が仲間(ピア)として相談を受け、自らの経験をもとにアドバイスしたり、一緒に考えたりします。

日時: 月2回、第2火曜日・第4火曜日 午前10時~12時(場所: 市役所仮本庁舎 2階)
平成30年 3月27日、4月10日、4月24日、
5月8日、5月22日、6月12日、6月26日
カウンセラー: 植野 都

※ご希望の方は、事前にご予約くださるようお願いいたします。
予約連絡先: 障害者支援課 (平成29年5月8日からFAX番号が変わりました)
FAX 047-712-8727 (☎ 047-334-1111)

相談内容: 教育(親子)、人間関係、職業、健康、介護、医療、結婚、離婚、出産、子育て、コミュニケーション等、気になること、悩んでいることなどをお気軽にご相談下さい。

相談内容の秘密は絶対に守りますので、安心して一緒にお茶でも飲みながら、お話しませんか。



【市川市からのお知らせ】

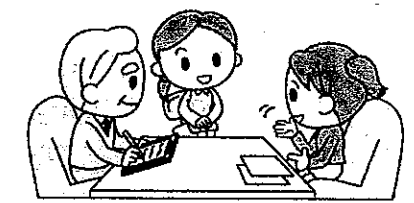
手話通訳の派遣を依頼するときは、障害者支援課

市川市の「手話通訳者派遣事業」は、市役所仮本庁舎「障害者支援課」で行っています。手話通訳の派遣を依頼するときは、障害者支援課にご連絡ください。

連絡先 FAX: 047(712)8727 (平成29年5月8日から変わりました)
電話: 047(334)1111

受付時間 月曜日~金曜日 午前8時40分~午後5時00分
(土・日・祝祭日・年末年始はお休みとなります)

申請方法 FAX・窓口での申請をお願いいたします。
派遣時間 午前8時~午後10時まで
費用 無料



不明な点がございましたら、市川市役所仮本庁舎 障害者支援課までご連絡をお願いいたします。

■連絡先 市川市役所仮本庁舎 障害者支援課
(平成29年5月8日から変わりました)
FAX: 047(712)8727 障害者支援課直通
電話: 047(334)1111 市川市役所仮本庁舎(電話番号変更ありません)
担当(手話通訳者 北島・奥山・松岡)まで

会員募集中!

ぜひ

平成28年度 59名

平成29年度は会員数 63 名でした!!

市川市ろう者協会にご入会ください!

会費のご説明

30年度もぜひ会員継続をお願いいたします。

- ◆市川市ろう者協会の会費：単年会費2,000円、夫婦会費3,000円
- ◆(社福)千葉県聴覚障害者協会の会費：1名につき15,000円<減免制度あり。下記参照>
- ◆会費は市会費・県会費の一括納入をお願いしています。30年度もぜひ一括納入にご協力ください。
<市川市ろう者協会のみ入会の場合の会費は5,000円です。(市外のろう者のみに適用)>
- ◆千葉県協会体育部会員(全国ろうあ者体育大会、関東ろう者体育大会に参加希望の方)の会費は、必ず市川市ろう者協会を経由して納入することになっています。ご協力ください。

<減免制度適用後の会費(実際の納入額、1年分)>

(社福)千葉県聴覚障害者協会会費	15,000円/1名				
一人または一組の県協会会費 <実際の納入額>	減免額 高齢者:2,000円/1名 夫婦:2,000円/1組(夫婦の場合1名につき1,000円減額)				
	会員	高齢者	夫婦	夫婦の一方のみ高齢者	夫婦ともに高齢者
	15,000円	13,000円	28,000円	27,000円	26,000円
市川市ろう者協会	2,000円	2,000円	3,000円	3,000円	3,000円
合計の納入額	17,000円	15,000円	31,000円	30,000円	29,000円

※県協会会費(1名分)には、下記の登録料が含まれています:

全日本ろうあ連盟登録料:2,500円 関東ろう連盟登録料:500円

■会費お払い込みの方法(3通りあります。)

①郵便局備え付けの振替用紙をご使用の場合

口座加入者名:市川市ろう者協会 口座番号:00140-9-151023

②他金融機関(銀行など)からのお振り込みの場合

振込用口座番号:〇一九(ゼロイチキユウ)店(019) 当座 0151023

※①②をご利用の場合、申し訳ありませんが、手数料をご負担くださるよう、お願いします。

③当協会理事に会費を直接お預けになる場合、まずは下記宛にお問い合わせください。

市川市ろう者協会 会計部 会費等集金担当 立本和子 FAX 047-396-4727



市川市ろう者協会 月例理事会

開催日:毎月第1金曜 19時~21時 会場:市川公民館 第1会議室

傍聴大歓迎!

当協会に関するお問い合わせは、下記宛にお願いします:

市川市ろう者協会事務局(朝香敬子)

FAX:047-711-2265 mail:asahi0485@gmail.com

市川市ろう者協会会報 さとみ第128号

平成30年3月16日発行

発行人 浅野史行 編集人 広報部

発行 市川市ろう者協会